
令和7年度
福岡市高齢者実態調査
報 告 書
【概 要 版】

令和8年7月
福岡市 福祉局

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 回収の結果	2
4. 資料の見方	2
II 調査結果	3
第1章 高齢者一般調査共通設問	3
1. 回答者の属性	3
2. 世帯状況	4
3. 情報通信機器利用状況	5
第2章 高齢者一般調査 A	7
1. 日常生活	7
(1) 外出	7
(2) 近所付き合い	9
(3) 孤立死	10
(4) 災害時や緊急時	12
2. 生きがい・社会参加	13
(1) 生きがいを感じること	13
(2) 仕事	14
(3) 社会参加	17
第3章 高齢者一般調査 B	19
1. 住まい	19
(1) 住居形態	19
(2) 困りごと・住み替え	20
2. 健康状態	21
(1) 健康状態	21
(2) 健康づくりや介護予防	23
(3) 口腔	25
(4) 認知症	26
3. 医療・福祉	27
(1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）	27
(2) 在宅医療	28
(3) 今後の介護意向	29
(4) 行政への要望	30

第4章 介護サービス調査共通設問	31
1. 回答者の属性	31
(1) 性別・年齢	31
(2) 要介護度	32
2. 在宅医療	33
3. 今後の介護の受け方	35
4. 介護保険制度	36
5. 介護者	37
(1) 介護者の属性	37
(2) 介護者の就業	38
(3) 今後の介護の仕方	40
第5章 介護保険在宅サービス利用者調査	41
1. 介護保険サービスの利用状況	41
2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス	42
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査	43
1. 介護保険サービスの利用状況	43
(1) 在宅サービスの利用経験	43
(2) 在宅サービスを利用していない理由	44
2. 今後の介護保険サービスの利用	45
第7章 介護保険施設等サービス利用者調査	46
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度	46
2. 施設等を選ぶときに重視する点	48
第8章 介護支援専門員調査	49
1. 回答者の属性	49
2. 勤務形態・兼務内容	50
3. ケアマネジメント	51
(1) 給付管理件数	51
(2) 組み合わせた保険外サービス	51
(3) 今後充実が必要な保険外サービス	52
4. 地域ケア会議	53
5. 行政に期待する役割	54

I 調査概要

1. 調査の目的

本市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「第10期介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

2. 調査の概要

調査種別	対象者・調査人数	発送日	回収期限
高齢者一般調査A	・市内在住の65歳以上（令和7年10月時点）の者 ・3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）	令和8年 1月15日	令和8年 2月13日 郵送着まで
高齢者一般調査B	・市内在住の65歳以上（令和7年10月時点）の者 ・3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）		
介護保険在宅サービス利用者調査	・介護保険在宅サービス利用者（令和7年8月時点） ・3,000人（無作為抽出）		
介護保険在宅サービス未利用者調査	・在宅の要介護認定者のうち、サービス未利用者（令和7年8月時点） ・2,000人（無作為抽出）		
介護保険施設等サービス利用者調査	・市内の介護保険施設、グループホーム入所者（令和7年8月時点） ・1,500人（無作為抽出）		
介護支援専門員調査	・市内の居宅介護支援事業所、いきいきセンターふくおか所属の介護支援専門員（令和7年10月時点） ・1,504人		

3. 回収の結果

調査種別	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査A	3,000	1,975	65.8%	1,970	65.7%
高齢者一般調査B	3,000	1,915	63.8%	1,912	63.7%
介護保険在宅サービス利用者調査	3,000	1,493	49.8%	1,490	49.7%
介護保険在宅サービス未利用者調査	2,000	1,006	50.3%	996	49.8%
介護保険施設等サービス利用者調査	1,500	1,065	71.0%	910	60.7%
介護支援専門員調査	1,504	1,103	73.3%	1,103	73.3%

※回収された調査票から白紙のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

4. 資料の見方

- (1)集計結果は、標本数（図ではnと表示）を基数として百分比（%）を算出し、小数点第1位（第2位を四捨五入）までを図表に表している。
- (2)小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の計が100%とならない場合がある。また複数回答の質問においては、百分比の合計が100%を超える場合がある。
- (3)図表中の「N」（Number of cases の略）とは設問に対する回答件数の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。
- (4)グラフ内の数値の単位はすべて%である。
- (5)2つ以上の選択肢を合計して表している比率は、各選択肢の割を合計して算出している。
- (6)文中の選択肢の表記は「」で行い、2つ以上のものを合計して表す選択肢は『』で表記している。

Ⅱ 調査結果

第1章 高齢者一般調査共通設問

「高齢者一般調査 A」「高齢者一般調査 B」の2つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

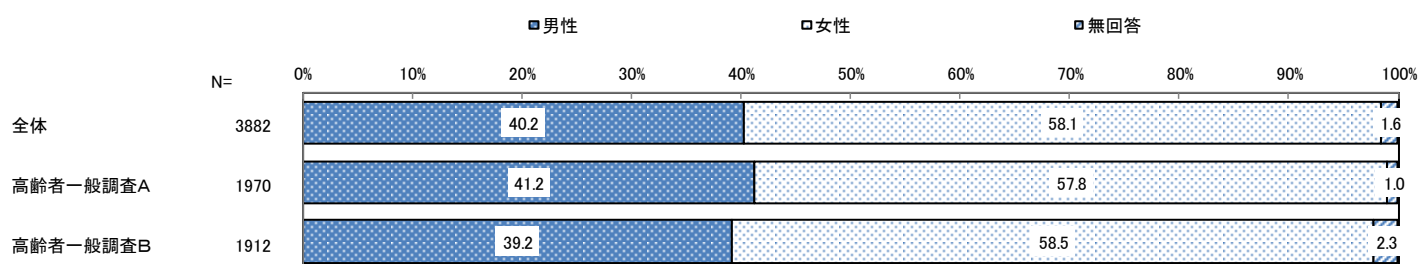
1. 回答者の属性

(調査A：問2・問3、調査B：問2・問3)

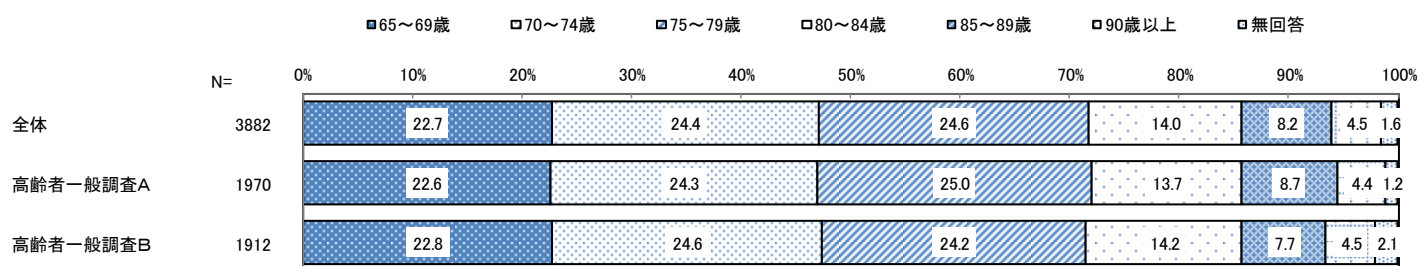
◇回答者は、調査Aでは「男性」が41.2%、「女性」が57.8%、調査Bでは「男性」が39.2%、「女性」が58.5%となっている。【図表 1-1-1】

◇『75歳以上の後期高齢者』は、調査Aでは51.8%、調査Bでは50.6%となっている。【図表 1-1-2】

【図表 1-1-1 性別】



【図表 1-1-2 年齢】



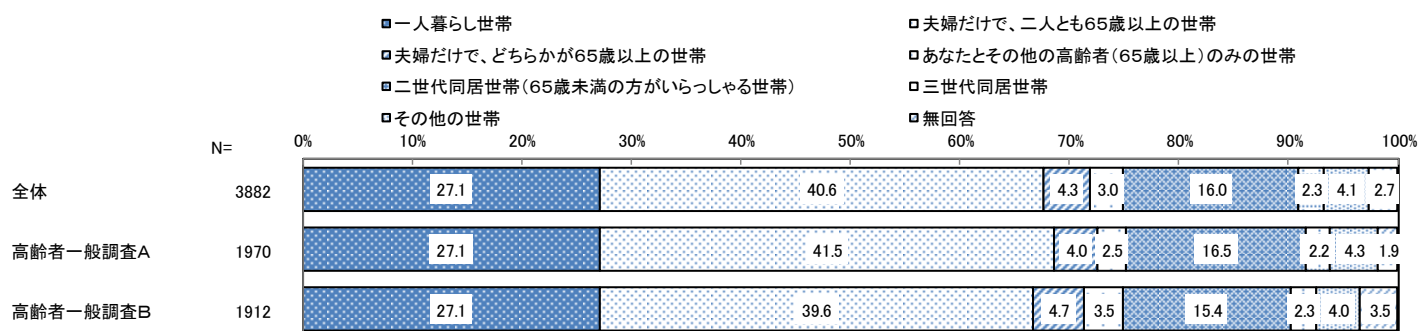
2. 世帯状況

(調査A：問5・問5-1、調査B：問5・問5-1)

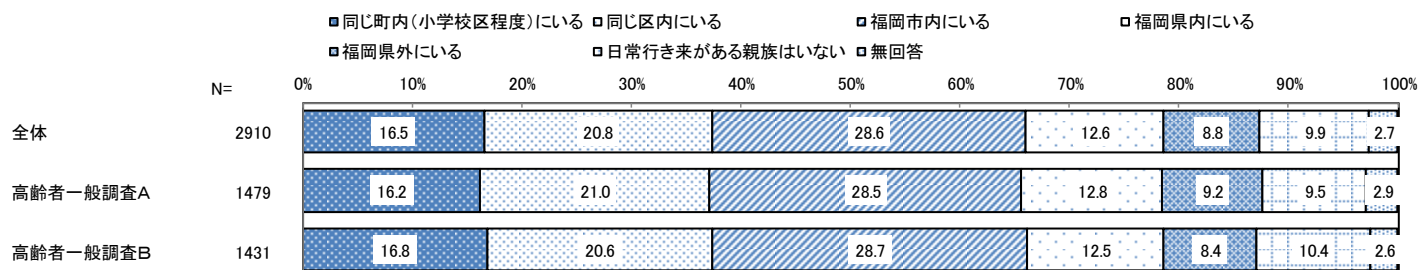
◇「一人暮らし世帯」は、調査A、調査Bともに27.1%となっている。【図表1-2-1】

◇「一人暮らし世帯」と「夫婦だけで、二人とも65歳以上の世帯」、「夫婦だけで、どちらかが65歳以上の世帯」、「あなたとその他の高齢者(65歳以上)のみの世帯」を合わせた『高齢者のみで暮らす世帯』のうち、日常行き来がある親族のいる場所が『福岡市内』であるのは、調査Aでは65.7%、調査Bでは66.1%となっている。【図表1-2-2】

【図表1-2-1 世帯構成】



【図表1-2-2 日常行き来がある親族のいる場所】



	福岡市内
調査A	65.7
調査B	66.1

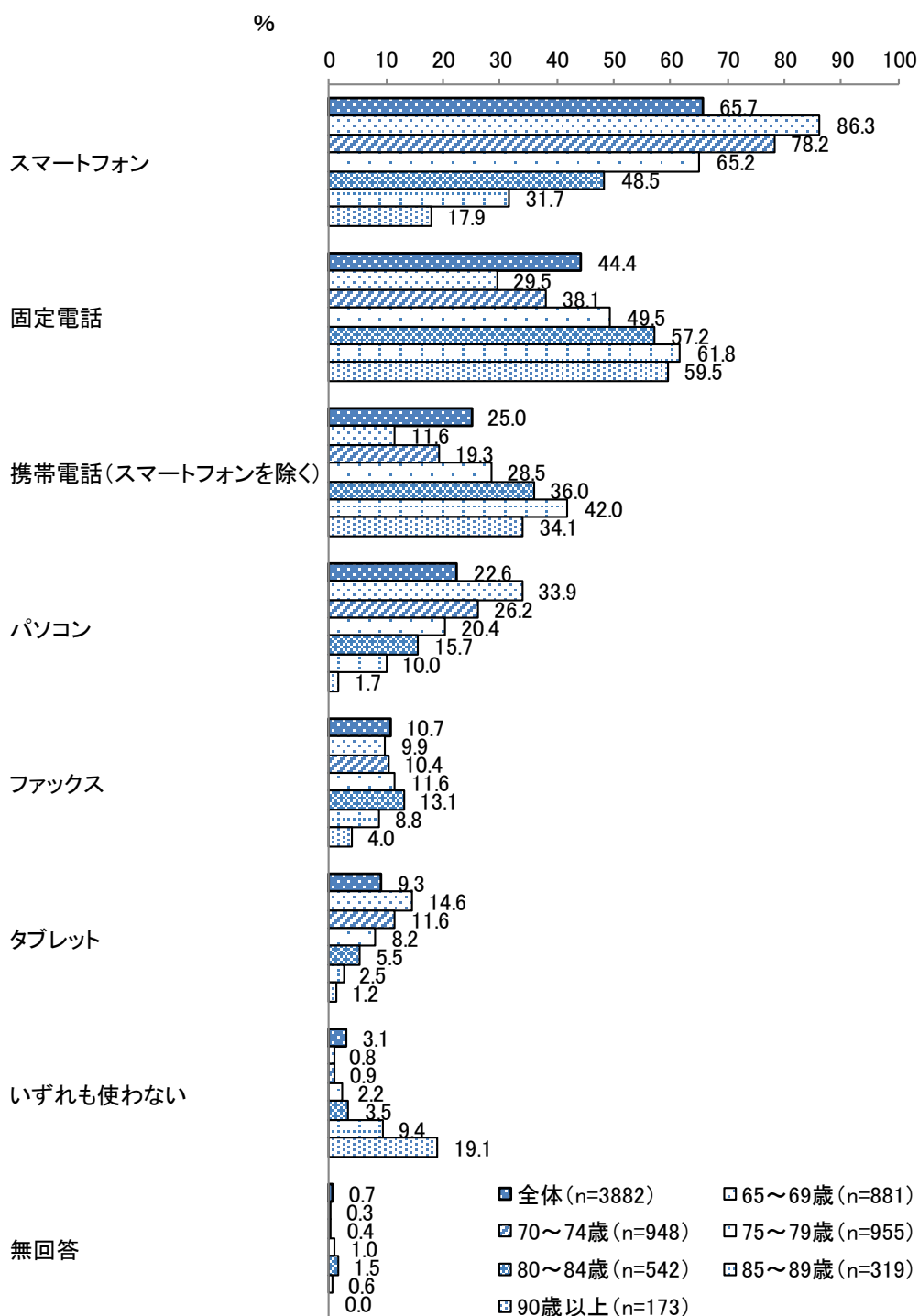
3. 情報通信機器利用状況

(調査A：問8・問8-1、調査B：問8・問8-1)

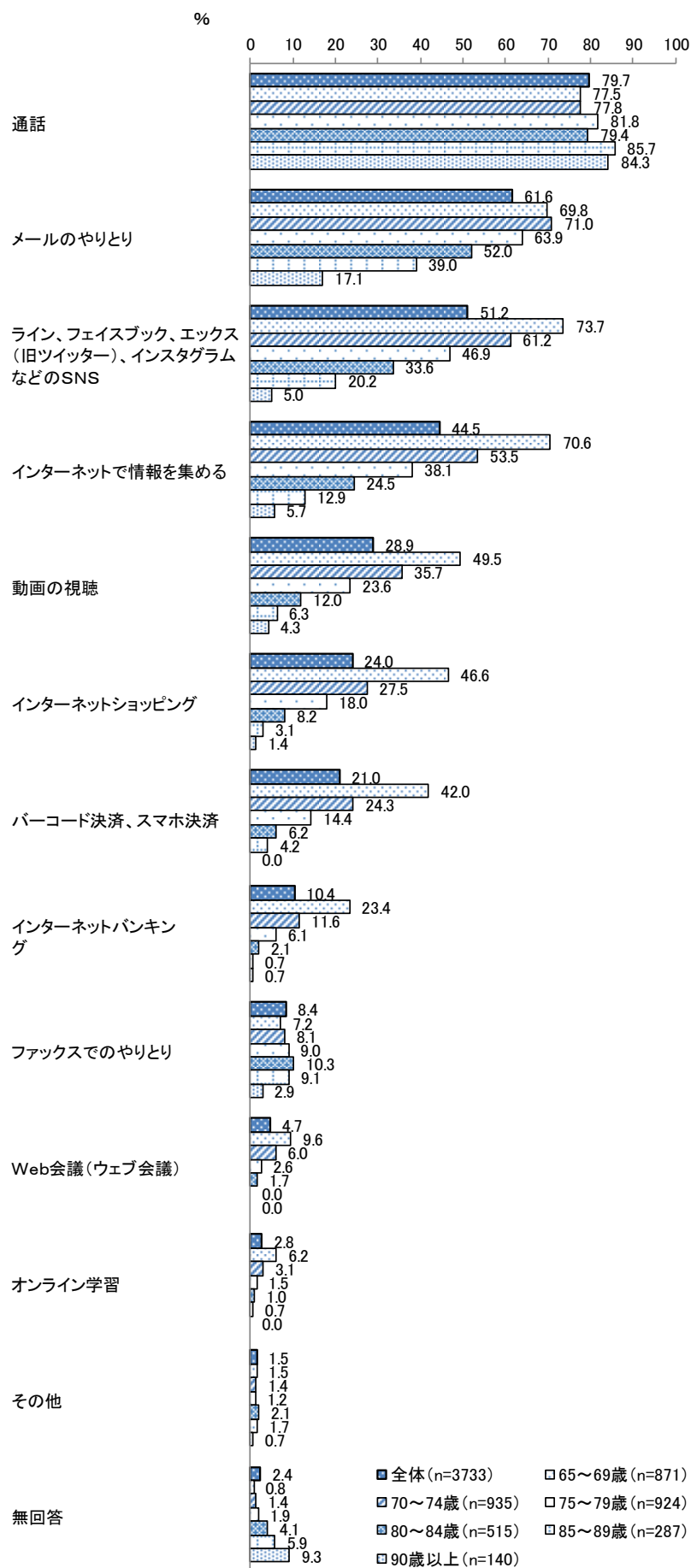
◇利用している情報通信機器は、全体では「スマートフォン」が65.7%で最も高く、次いで「固定電話」が44.4%、「携帯電話（スマートフォンを除く）」が25.0%となっている。【図表 1-3-1】

◇情報通信機器の利用用途は、全体では「通話」が79.7%で最も高く、次いで「ライン、フェイスブック、エックス（旧ツイッター）、インスタグラムなどのSNS」が61.6%、「インターネットで情報を集める」が51.2%となっている。【図表 1-3-2】

【図表 1-3-1 利用している情報通信機器（年齢別）〔複数回答〕】



【図表 1-3-2 情報通信機器の利用用途（年齢別）〔複数回答〕】



第2章 高齢者一般調査 A

1. 日常生活

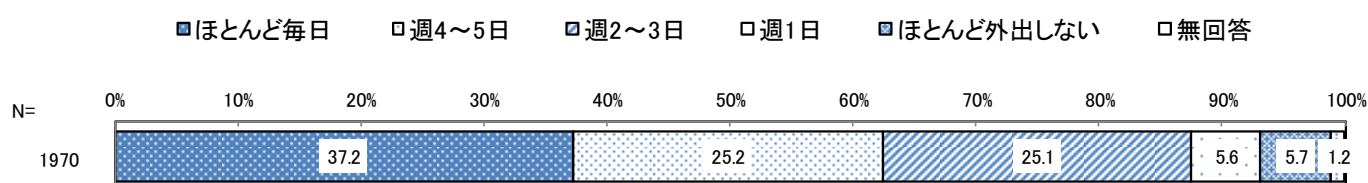
(1) 外出（問9・問9-3・問11）

◇一週間あたりの外出頻度は、「ほとんど毎日」が37.2%で最も高く、次いで「週4～5日」が25.2%、「週2～3日」が25.1%となっている。【図表2-1-1】

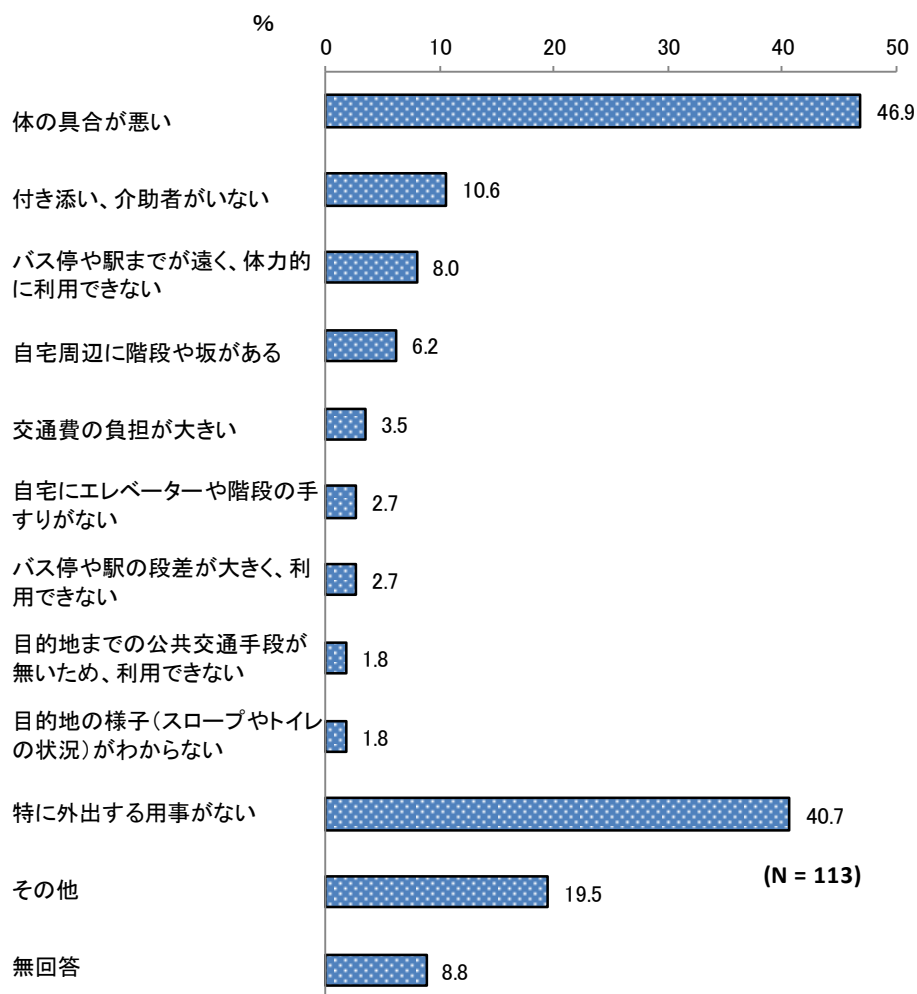
◇外出しない理由は、「体の具合が悪い」が46.9%で最も高く、次いで「特に外出する用事がない」が40.7%となっている。【図表2-1-2】

◇外出の際に困っていることは、「自転車や車などの交通マナーが悪い」が20.6%、「バス停に屋根やベンチなどの待合施設が少ない」が16.5%となっている。【図表2-1-3】

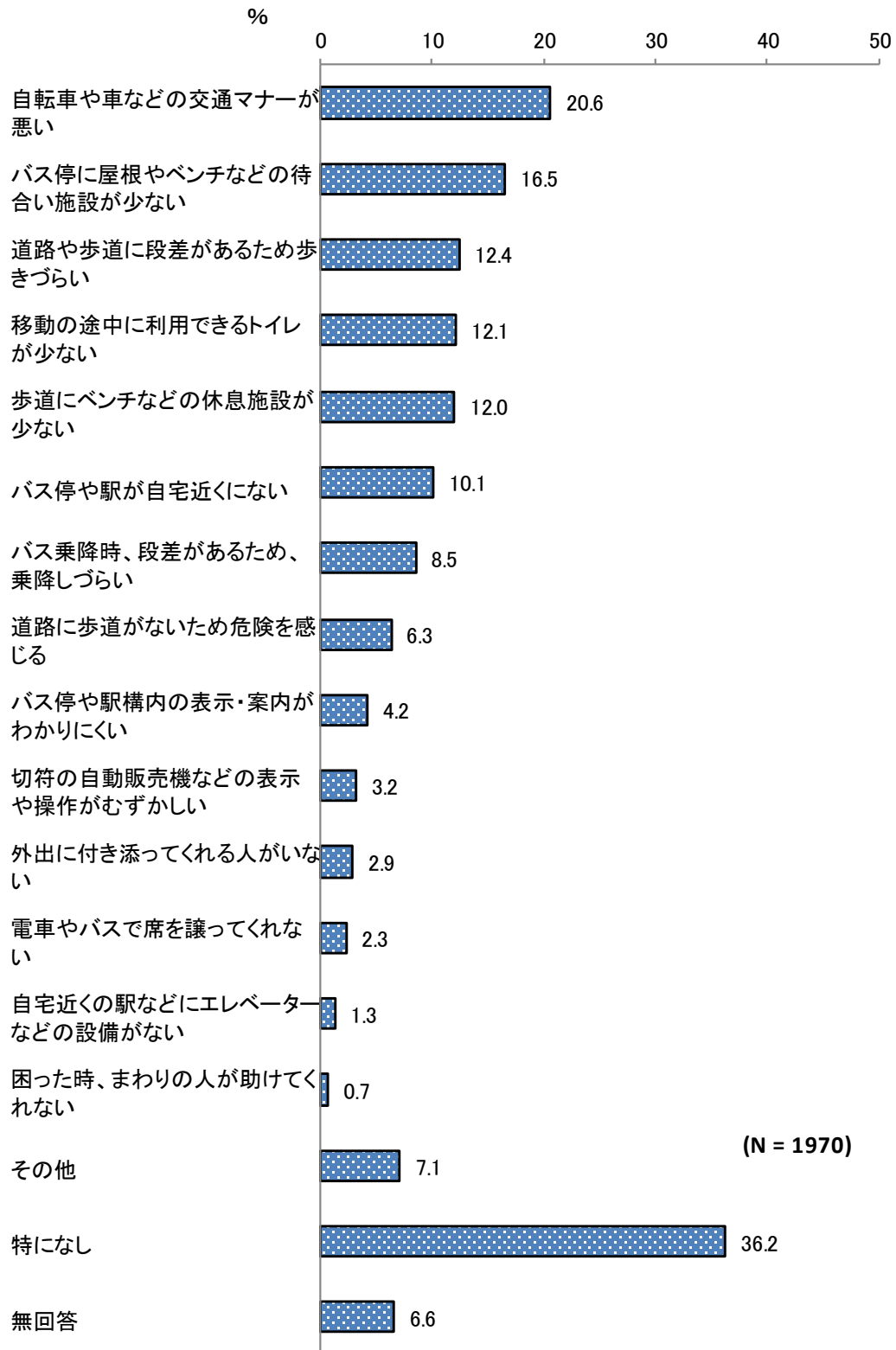
【図表 2-1-1 一週間の外出頻度】



【図表 2-1-2 外出しない理由〔複数回答〕】



【図表 2-1-3 外出の困りごと〔複数回答〕】

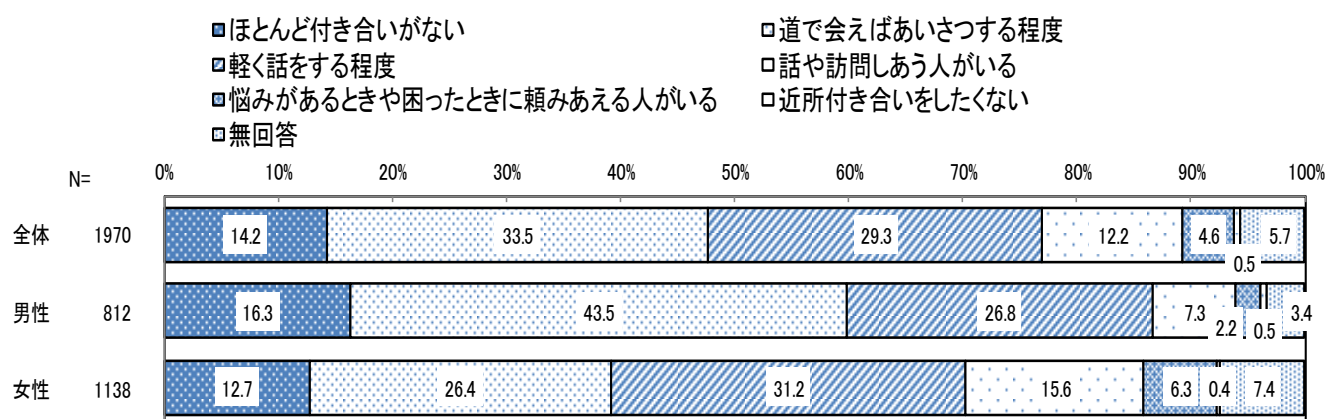


(2) 近所付き合い (問 13)

◇近所付き合いの程度は、「ほとんど付き合いがない」と「道で会えばあいさつする程度」を合わせた『近所付き合いが少ない』は 47.7%、一方、「話や訪問しあう人がいる」と「悩みがあるときや困ったときに頼みあえる人がいる」を合わせた『近所付き合いが多い』は 16.8%となっている。【図表 2-1-4】

◇『近所付き合いが少ない』は男性で 59.8%、女性で 39.1%となっており、男性は女性よりも『近所付き合いが少ない』の割合が高い。【図表 2-1-4】

【図表 2-1-4 近所付き合い】



	近所 付き合い が少ない	近所 付き合い が多い
全体	47.7	16.8
男性	59.8	9.5
女性	39.1	21.9

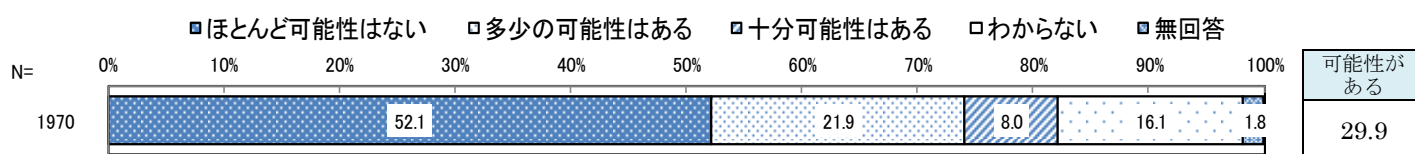
(3) 孤立死 (問 16・問 16-1・問 17)

◇孤立死する可能性の認識は、「ほとんど可能性はない」が52.1%で最も高く、次いで「多少の可能性はある」と「十分可能性はある」を合わせた『可能性がある』が29.9%となっている。【図表 2-1-5】

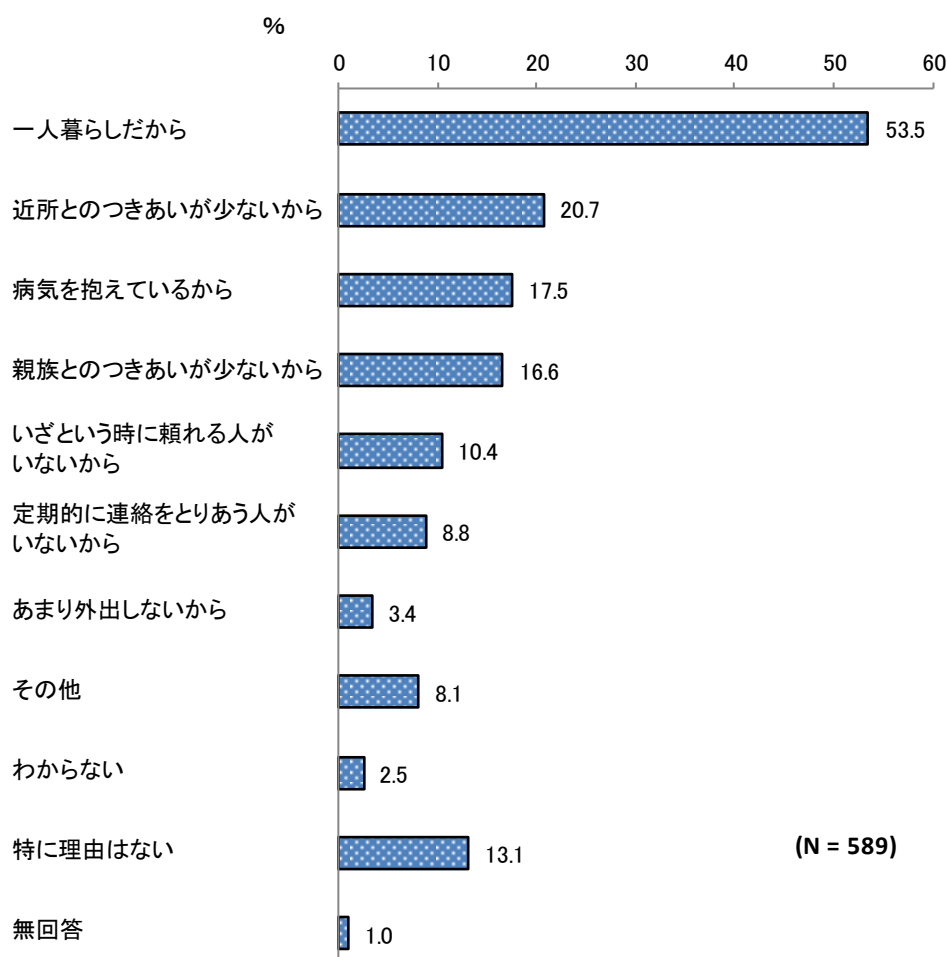
◇孤立死する可能性がある理由は、「一人暮らしだから」が53.5%で最も高く、次いで「近所とのつきあいが少ないから」が20.7%、「病気を抱えているから」が17.5%となっている。【図表 2-1-6】

◇孤立死防止策として必要なことは、「行政が提供する福祉サービス」が38.5%で最も高く、次いで「健康づくりや趣味活動への参加」が30.8%となっている。【図表 2-1-7】

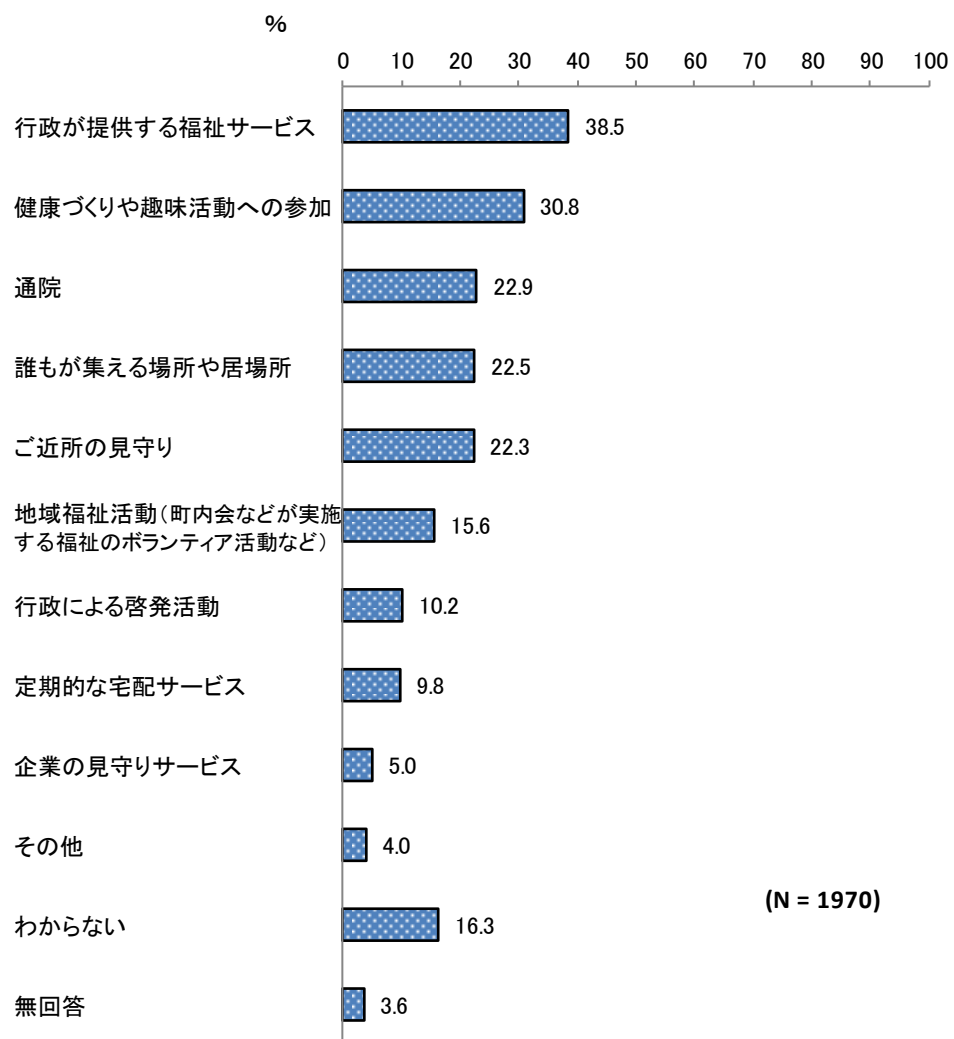
【図表 2-1-5 孤立死する可能性】



【図表 2-1-6 孤立死する理由〔複数回答〕】



【図表 2-1-7 孤立死防止策として必要と思うこと〔複数回答〕】



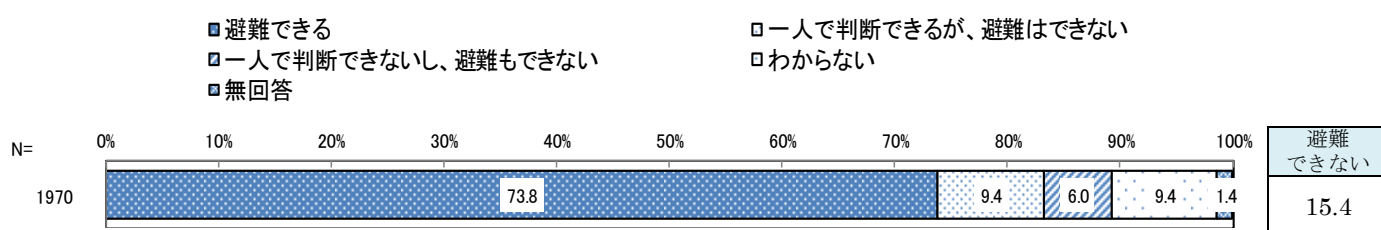
(4) 災害時や緊急時（問 19・問 20・問 21）

◇災害時や緊急時における一人での避難は、「避難できる」が 73.8%、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難もできない」を合わせた『避難できない』の割合が 15.4% となっている。【図表 2-1-8】

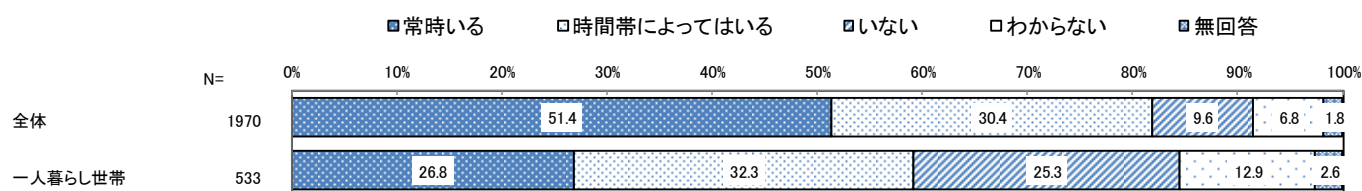
◇災害時に手助けを頼める人の有無は、「常時いる」が 51.4%で最も高く、次いで「時間帯によってはいる」が 30.4%、「いない」が 9.6%となっている。一人暮らし世帯では、「いない」が 25.3%と他の世帯構成と比べて高くなっている。【図表 2-1-9】

◇災害時の心配事や問題点は、全体で「避難所での生活が不安」が 45.5%で最も高く、次いで「特にない」が 31.7%、「情報をうまく入手できない」が 17.2%となっている。【図表 2-1-10】

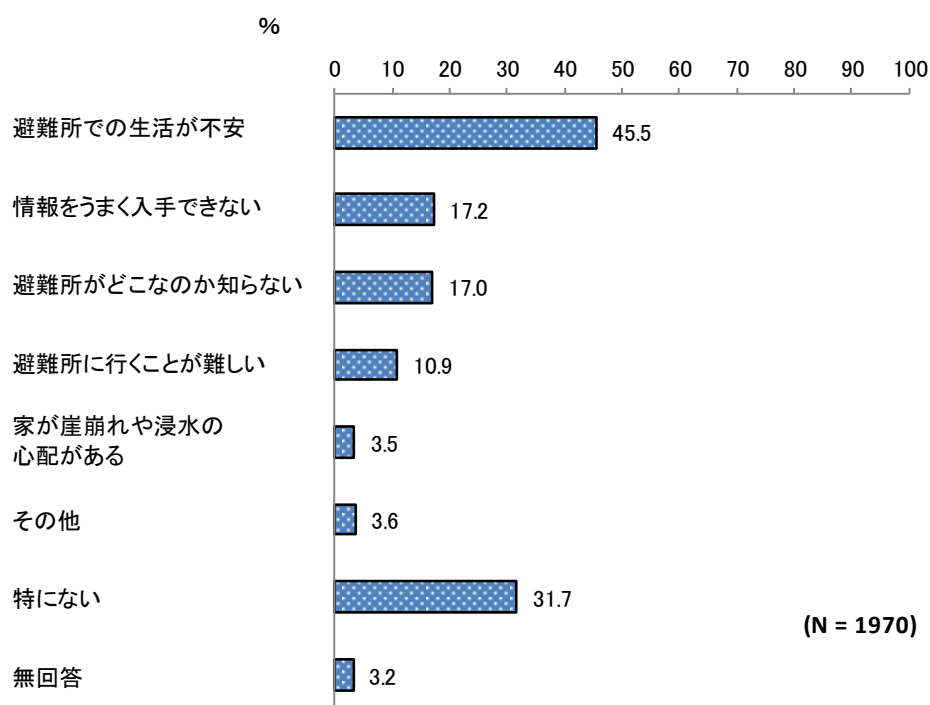
【図表 2-1-8 災害時や緊急時における一人での避難】



【図表 2-1-9 災害時や緊急時に手助けを頼める人の状況（全体・一人暮らし）】



【図表 2-1-10 災害時の心配事や問題点の内容[複数回答]】



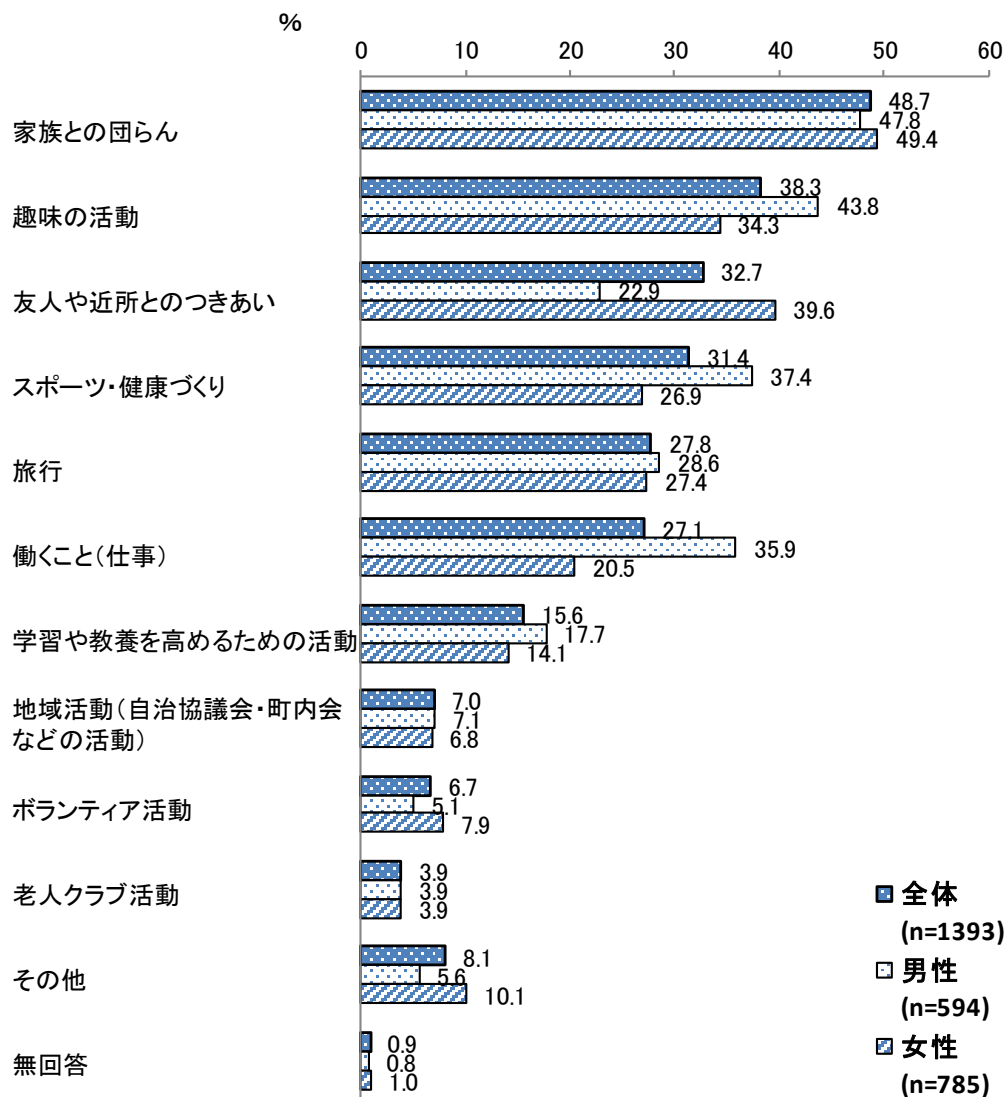
2. 生きがい・社会参加

(1) 生きがいを感じる事（問 26-1）

◇生きがいを感じることは、「家族との団らん」が48.7%で最も高く、次いで「趣味の活動」が38.3%となっている。【図表 2-2-1】

◇男性の上位3位は「家族との団らん」「趣味の活動」「スポーツ・健康づくり」、女性の上位3位は「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「趣味の活動」となっている。【図表 2-2-1】

【図表 2-2-1 生きがいを感じる事（性別）〔複数回答〕】

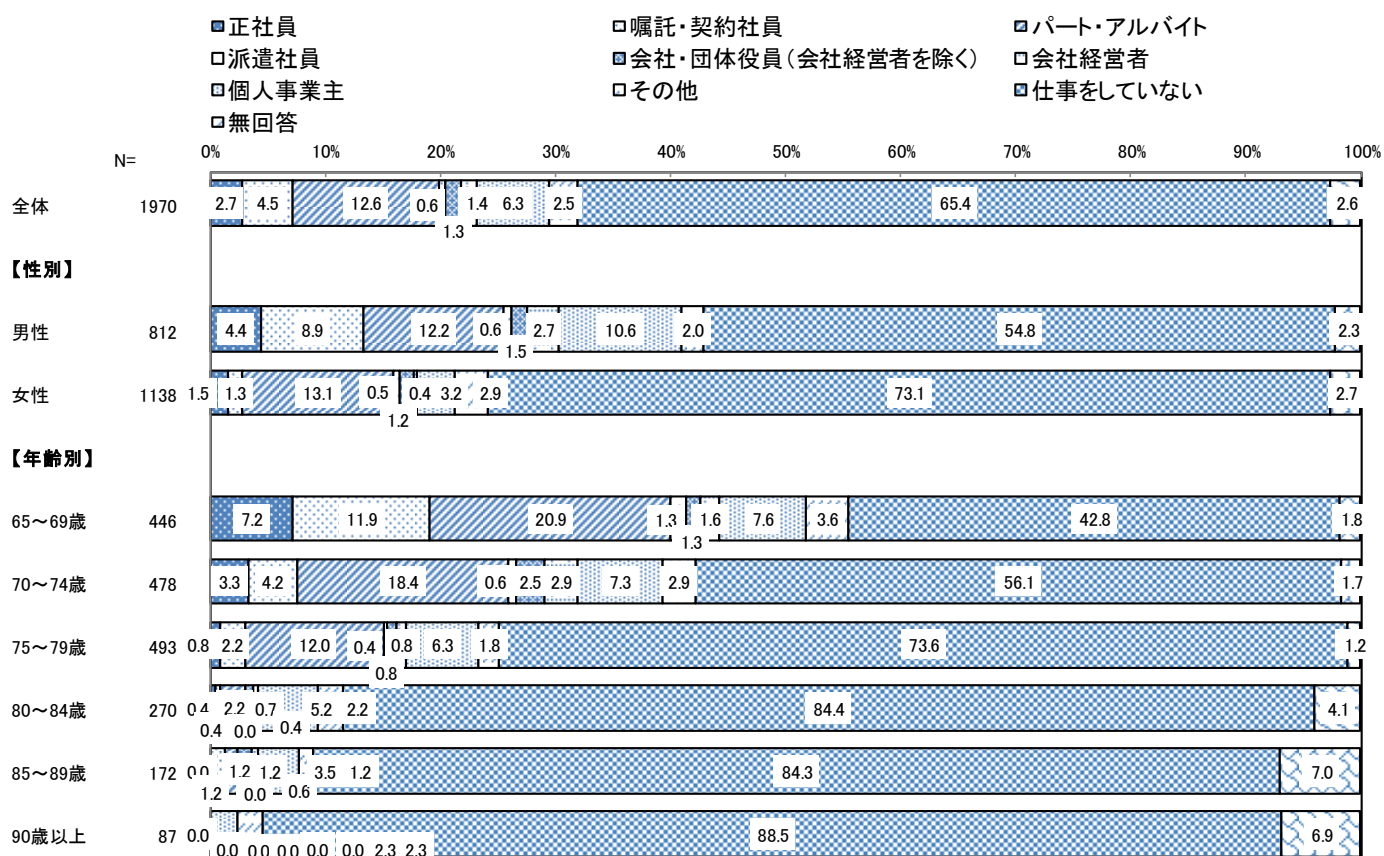


(2) 仕事（問 31・問 31-4・問 31-5・問 31-6）

◇日々の過ごし方は、「仕事をしていない」が 65.4%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 12.6%となっている。【図表 2-2-2】

◇「仕事をしていない」と回答した人を年齢別にみると、65～69 歳で 42.8%、70～74 歳で 56.1%、75～79 歳で 73.6%と、年齢が若いほど割合が低くなる傾向にある。【図表 2-2-2】

【図表 2-2-2 日々の過ごし方（性別・年齢別）】

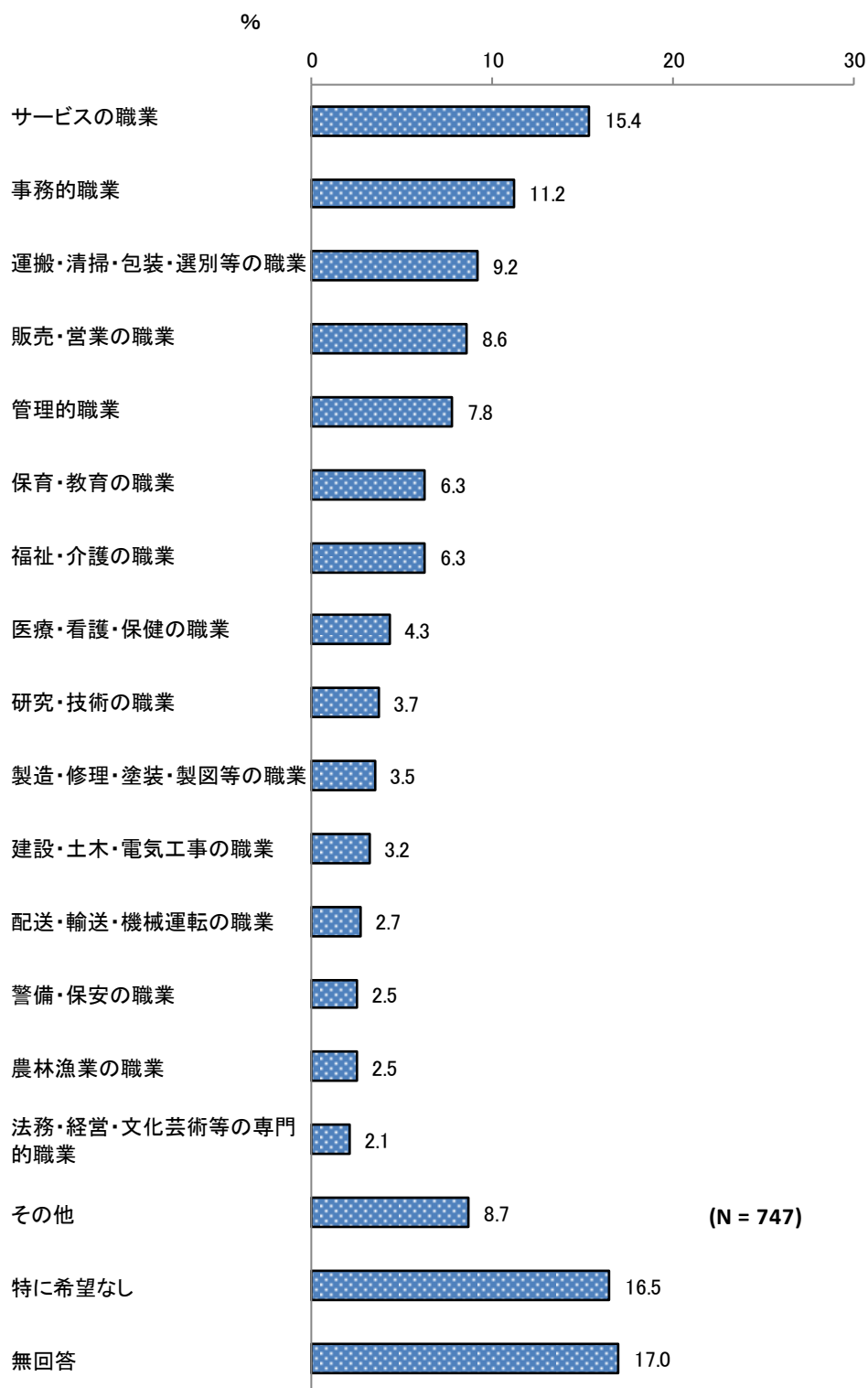


◇希望する仕事内容は、「特に希望なし」が16.5%で最も高く、次いで「サービスの職業」が15.4%、「事務的職業」が11.2%となっている。【図表 2-2-3】

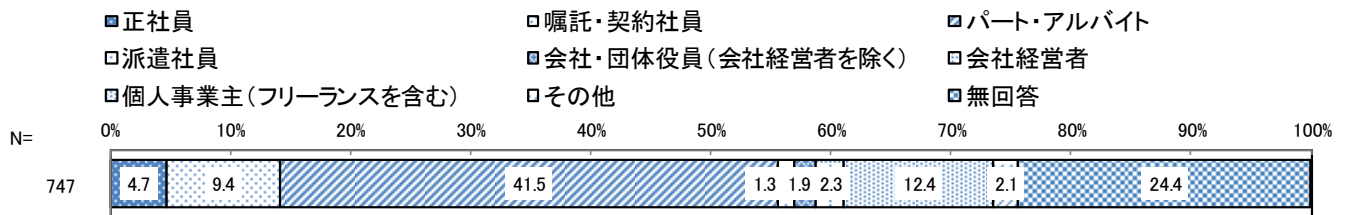
◇希望する就労形態は、「パート・アルバイト」が41.5%で最も高く、次いで「個人事業主（フリーランスを含む）」が12.4%、「嘱託・契約社員」が9.4%となっている。【図表 2-2-4】

◇仕事をしたい頻度は、一週間に「3 日」、一日に「4～6 時間」が最も高かった。【図表 2-2-5】【図表 2-2-6】

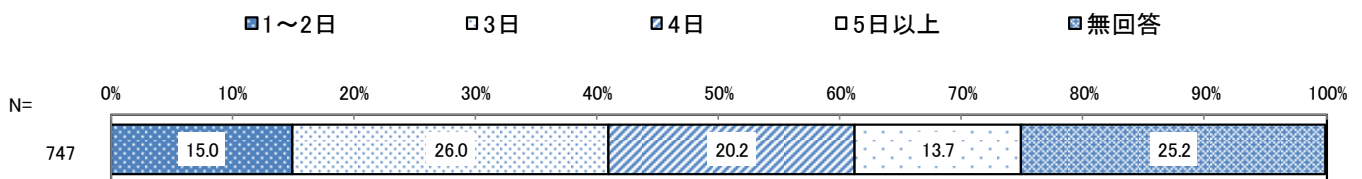
【図表 2-2-3 希望する仕事内容[複数回答]】



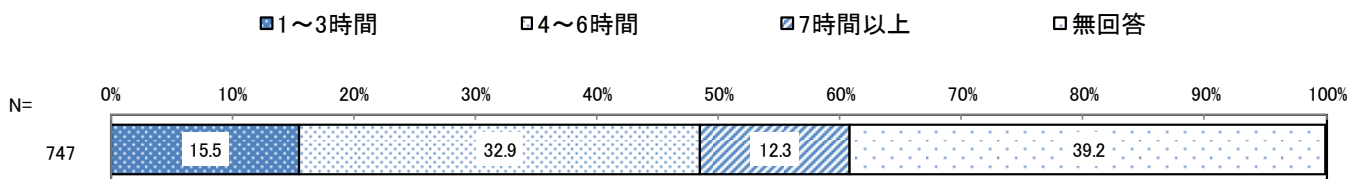
【図表 2-2-4 希望する就労形態】



【図表 2-2-5 仕事をしたい頻度/一週間に】



【図表 2-2-6 仕事をしたい頻度/一日に】



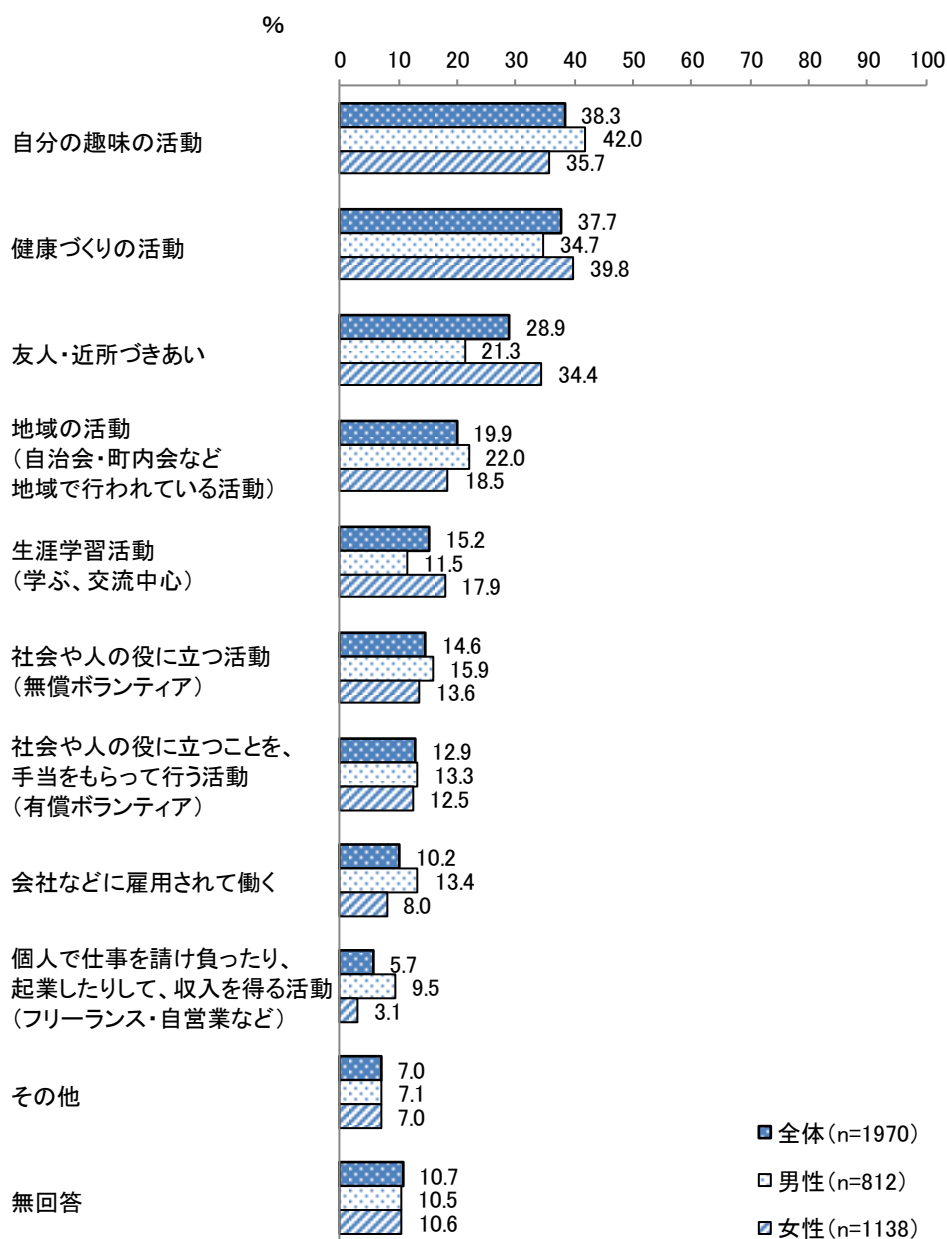
(3) 社会参加 (問 33・問 34)

◇社会参加したい活動は、「自分の趣味の活動」が38.3%で最も高く、次いで「健康づくりの活動」が37.7%、「友人・近所づきあい」が28.9%となっている。【図表 2-2-7】

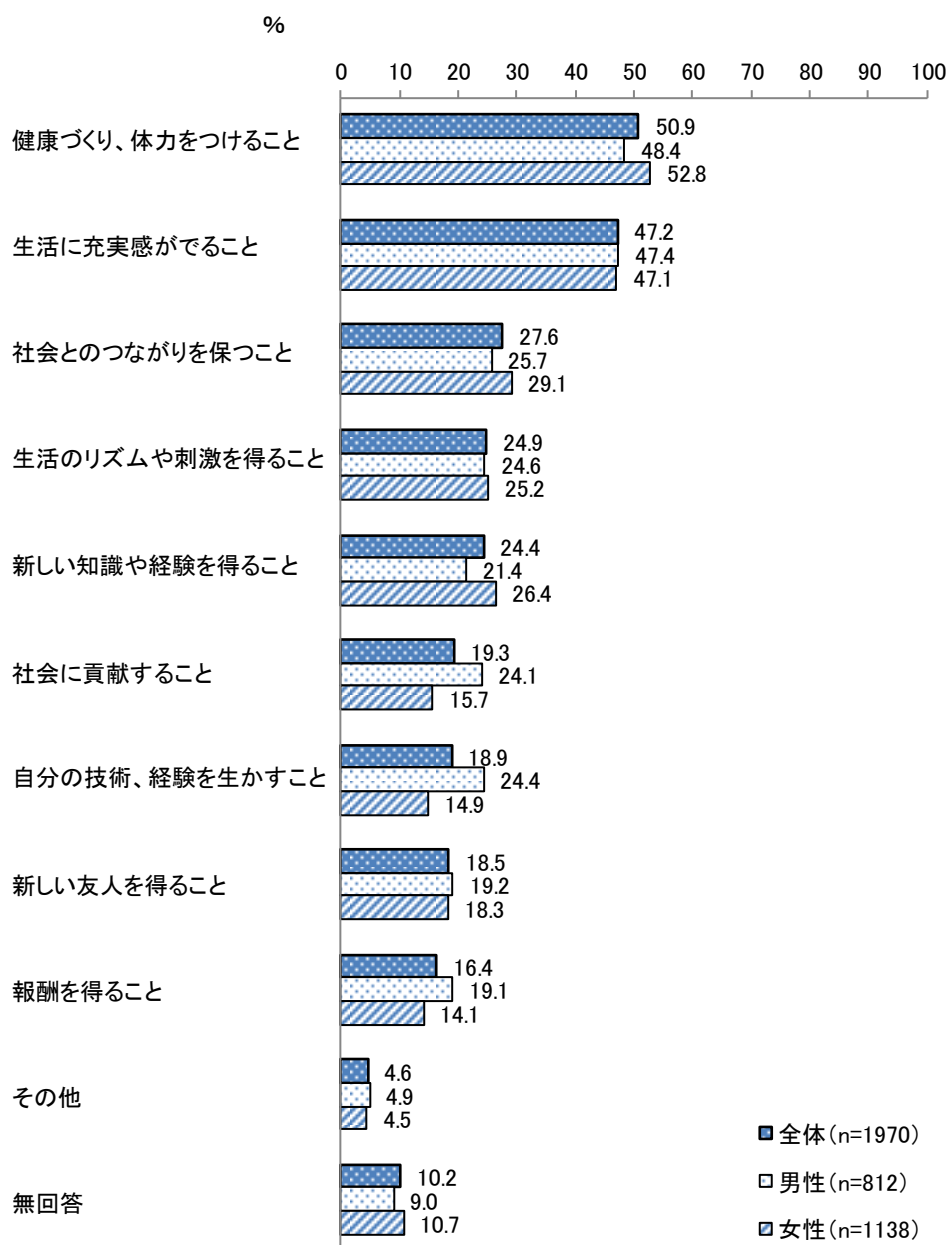
◇性別にみると、「自分の趣味の活動」では、男性が42.0%、女性が35.7%と、男性が女性を上回っている。一方「友人・近所づきあい」では、男性が21.3%、女性が34.4%と、女性が男性を大きく上回っている。【図表 2-2-7】

◇社会参加を行う際に期待することは、「健康づくり、体力をつけること」が50.9%で最も高く、次いで「生活に充実感がでること」が47.2%、「社会とのつながりを保つこと」が27.6%、「生活のリズムや刺激を得ること」が24.9%となっている。【図表 2-2-8】

【図表 2-2-7 社会参加したい活動 (性別) [複数回答]】



【図表 2-2-8 社会参加を行う際に期待すること（性別）〔複数回答〕】



第3章 高齢者一般調査 B

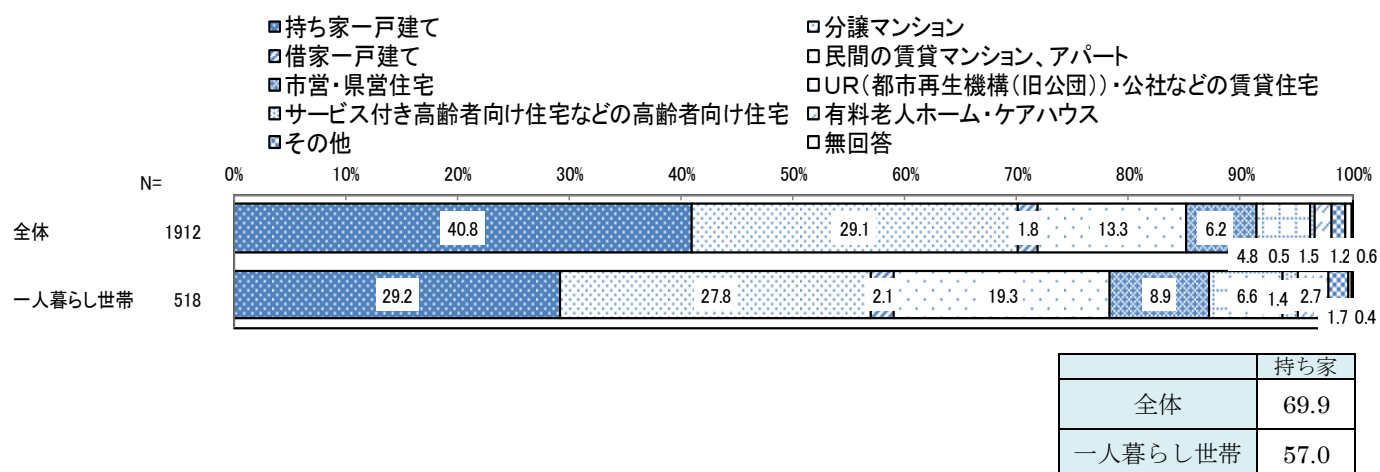
1. 住まい

(1) 住居形態（問9・問9-1）

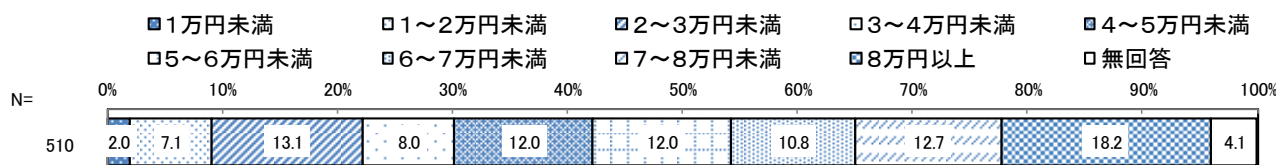
◇住居形態は、「持ち家一戸建て」が40.8%で最も高く、次いで「分譲マンション」が29.1%となっていて、これらを合わせた『持ち家』が69.9%となっている。ただし一人暮らし世帯に限ると『持ち家』が57.0%と他の世帯構成と比べて低くなっている。【図表3-1-1】

◇「借家一戸建て」「民間の賃貸マンション、アパート」「市営・県営住宅」「UR（都市再生機構（旧公団））・公社などの賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」を合わせた『賃貸住宅』に住んでいる人の1か月の家賃は、「8万円以上」が18.2%で最も高く、次いで「2～3万円未満」が13.1%、「7～8万円未満」が12.7%となっている。【図表3-1-2】

【図表3-1-1 住居形態（全体・一人暮らし）】



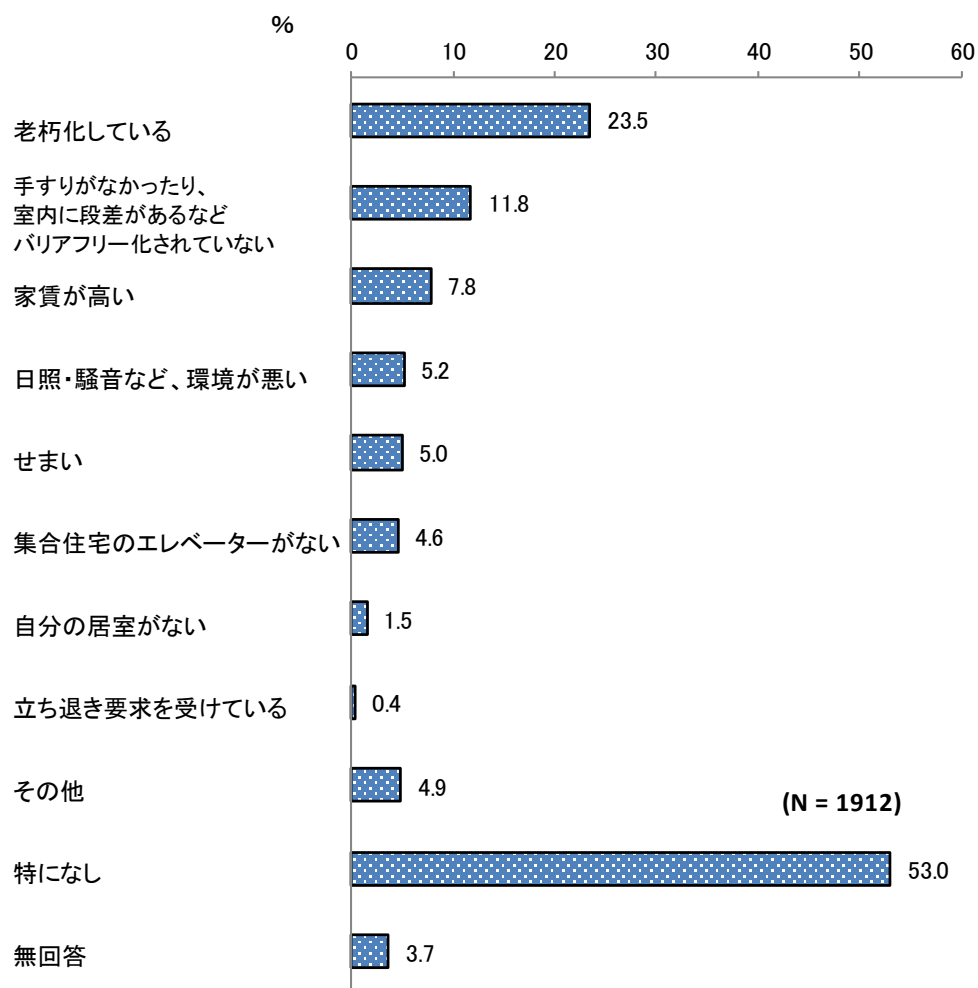
【図表3-1-2 住まいの1か月の家賃】



(2) 困りごと (問10)

◇現在の住まいで困っていることは、「特になし」が53.0%で最も高くなっており、半数以上が今のところ住居に不便を感じていない。困っていることは、「老朽化している」が23.5%で最も高く、次いで「手すりがなかったり、室内に段差があるなどバリアフリー化されていない」が11.8%となっている。【図表3-1-3】

【図表3-1-3 住まいで困っていること[複数回答]】



2. 健康状態

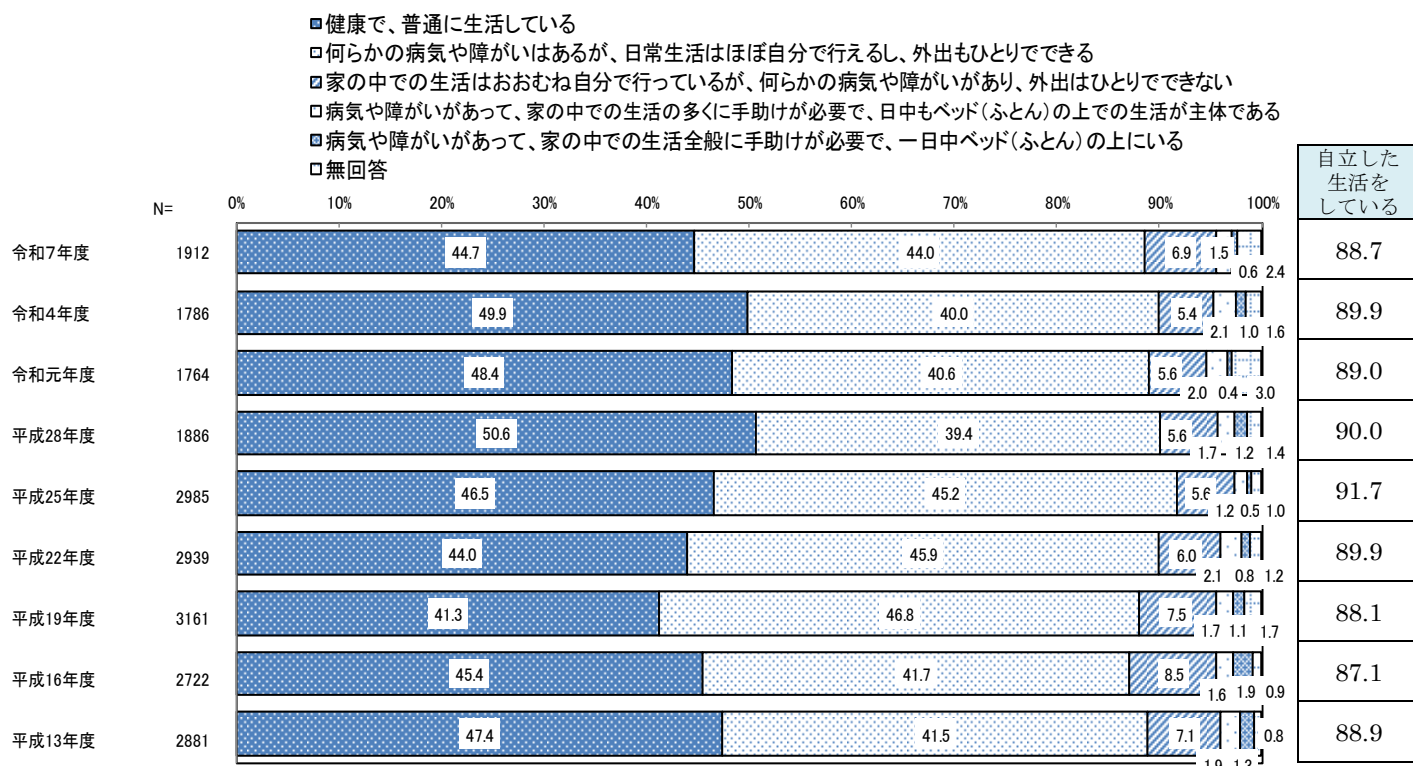
(1) 健康状態（問12）

◇現在の健康状態は、「健康で、普通に生活している」の44.7%と、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」の44.0%を合わせた『自立した生活をしている』が88.7%となっている。【図表3-2-1】

◇過去の調査結果と比較すると、「健康で、普通に生活している」は、今回やや減少する結果となった。ただし減少幅の分は「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」が増加しており、前回調査と比べて『自立した生活をしている』に大きな変化はみられない。【図表3-2-1】

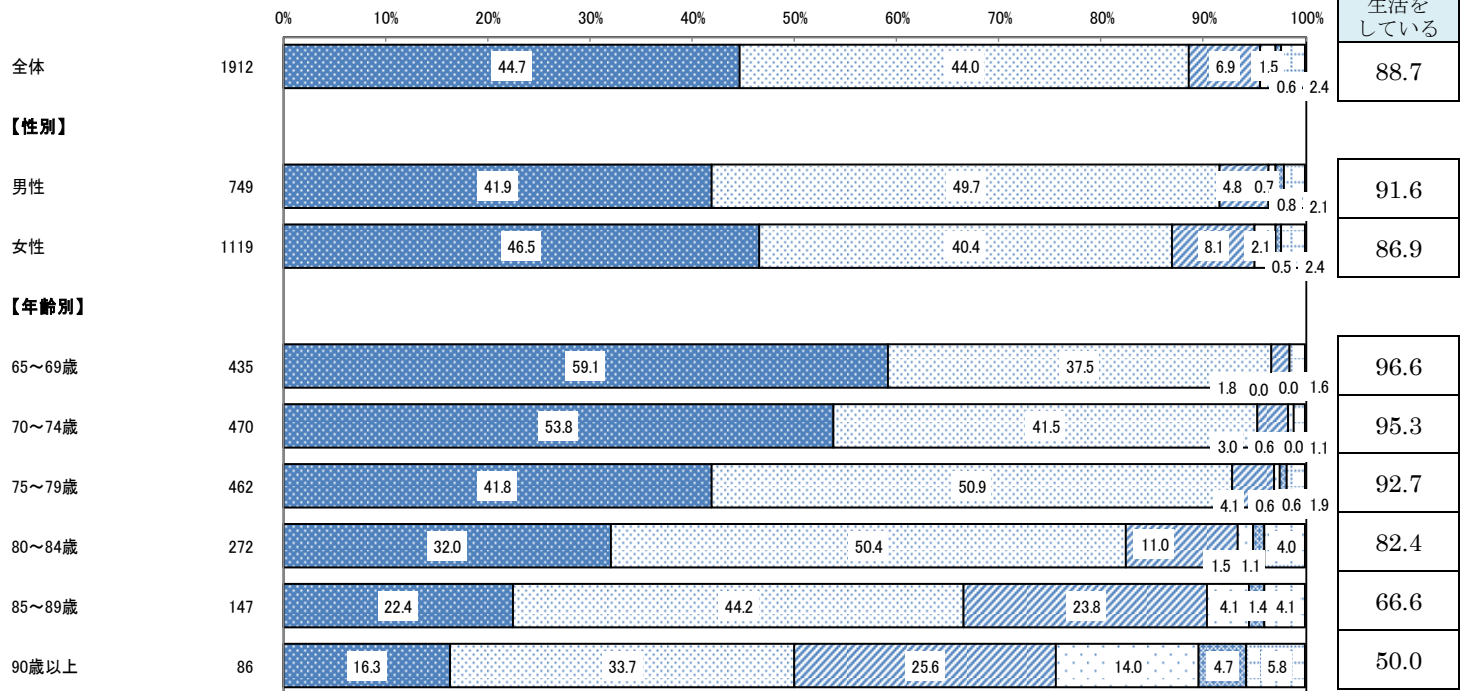
◇年齢別にみると、『自立した生活をしている』は79歳以下では9割以上、80～84歳では8割以上、85～89歳では7割弱、90歳以上では5割と、年齢が高くなるほど割合は減少している。【図表3-2-2】

【図表3-2-1 現在の健康状態（経年比較）】



【図表 3-2-2 現在の健康状態（性別・年齢別）】

- 健康で、普通に生活している
- 何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分でできるし、外出もひとりでできる
- 家の中での生活はおおむね自分で行っているが、何らかの病気や障がいがあり、外出はひとりでできない
- 病気や障がいがある、家の中での生活の多くに手助けが必要で、日中もベッド（ふとん）の上での生活が主体である
- 病気や障がいがある、家の中での生活全般に手助けが必要で、一日中ベッド（ふとん）の上にいる
- 無回答



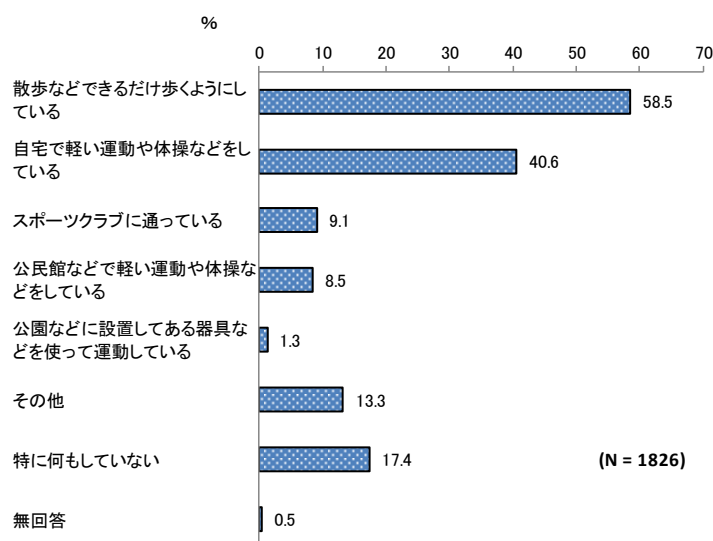
(2) 健康づくりや介護予防（問 12－1・問 12－5・問 27）

◇運動習慣の状況は、「散歩などできるだけ歩くようにしている」が58.5%で最も高く、次いで「自宅で軽い運動や体操などを行っている」が40.6%、「特に何もしていない」が17.4%となっている。【図表 3-2-3】

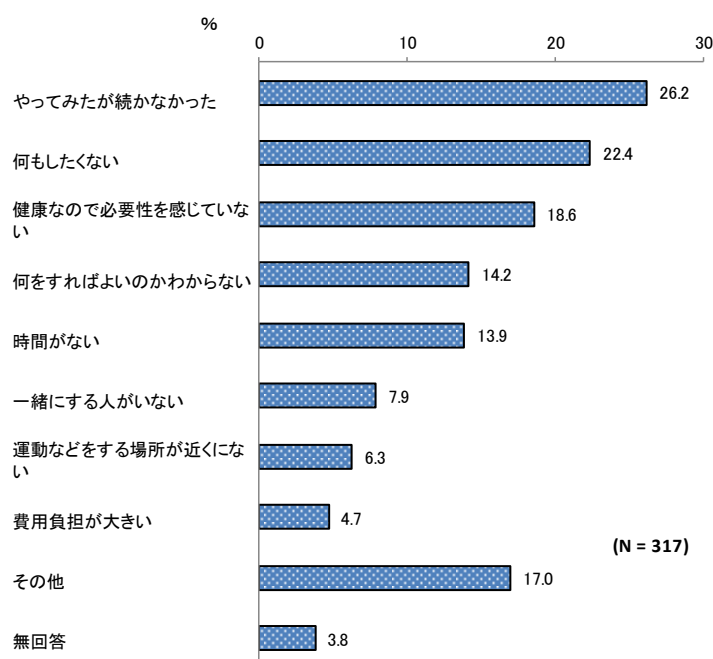
◇運動を何もしていない理由としては、「やってみたが続かなかった」が26.2%で最も高く、次いで「何もしたくない」が22.4%、「健康なので必要性を感じていない」が18.6%となっている。【図表 3-2-4】

◇健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいことは、「体力や筋力の維持・向上のための取り組み」が46.0%で最も高く、次いで「生きがいづくりのための取り組み」が38.4%、「フレイル予防についての取り組み」が37.2%となっている。【図表 3-2-5】

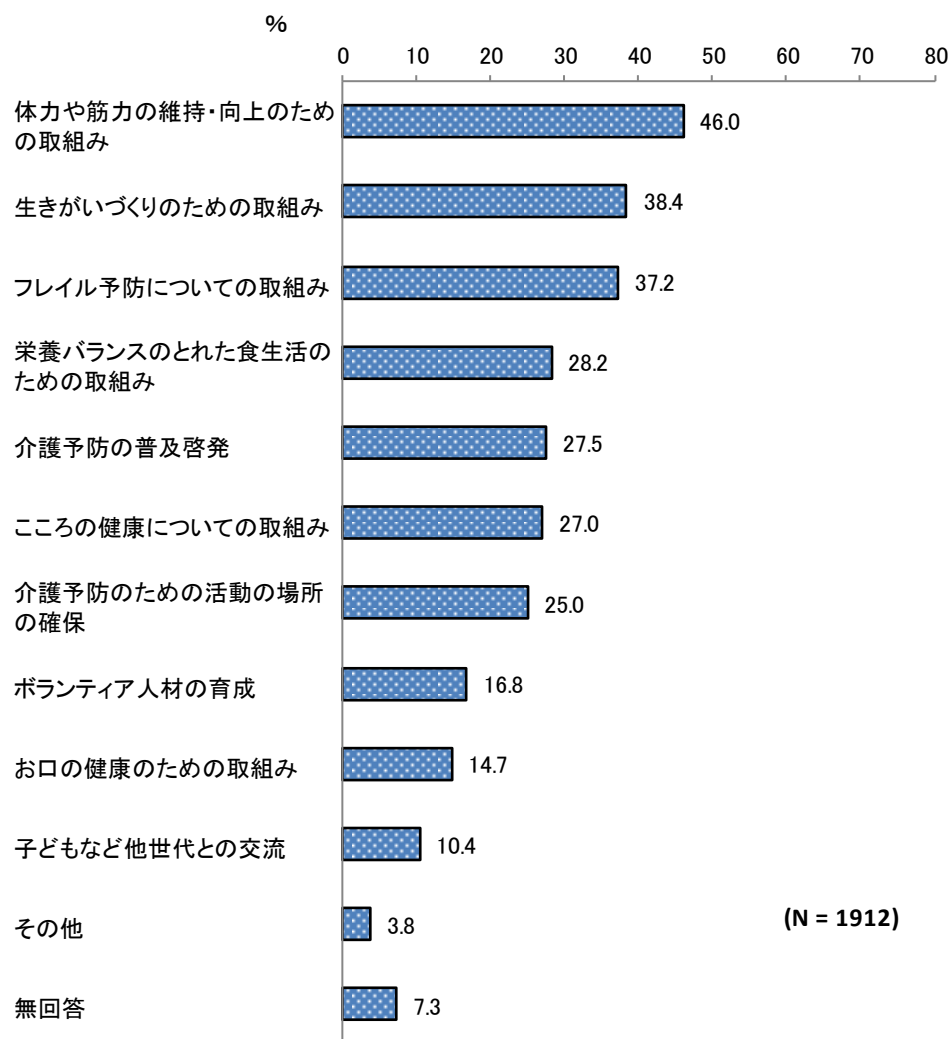
【図表 3-2-3 運動習慣の状況〔複数回答〕】



【図表 3-2-4 運動していない理由〔複数回答〕】



【図表 3-2-5 健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいこと〔複数回答〕】



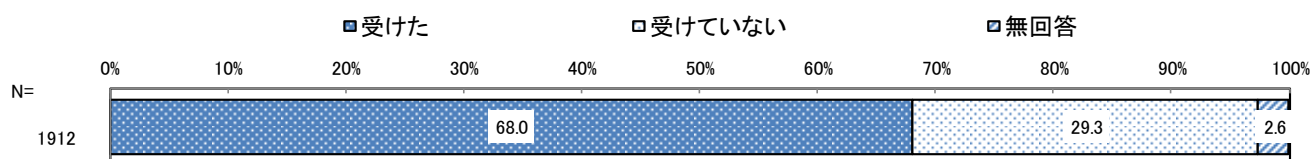
(3) 口腔 (問 15・問 16・問 20)

◇過去 1 年間の歯科の定期健診受診の有無は、「受けた」が 68.0%、「受けていない」が 29.3%となっている。【図表 3-2-6】

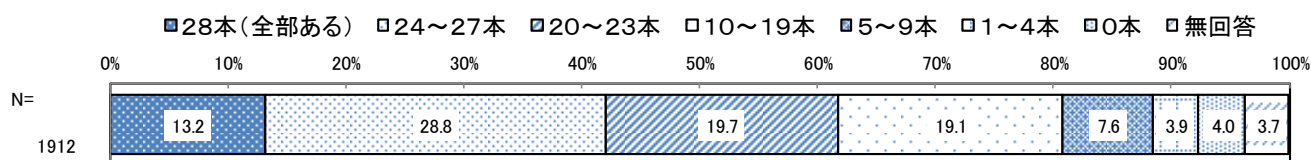
◇歯の本数(さし歯を含む)は、「24～27 本」が 28.8%で最も高く、次いで「20～23 本」が 19.7%、「10～19 本」が 19.1%となっている。【図表 3-2-7】

◇歯みがきの頻度は、「1 日 2 回」が 48.8%で最も高く、次いで「1 日 3 回以上」が 28.0%、「1 日 1 回」が 17.3%となっている。【図表 3-2-8】

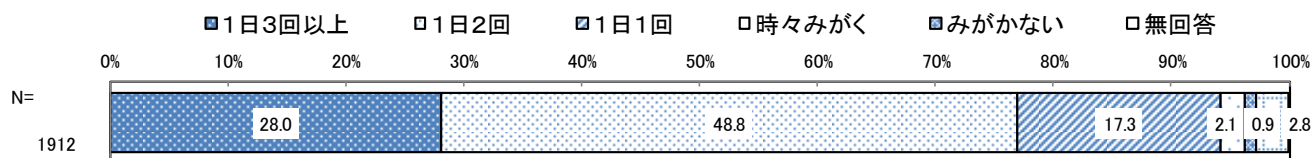
【図表 3-2-6 歯科の定期健診受診の有無】



【図表 3-2-7 歯の本数】



【図表 3-2-8 歯みがきの頻度】

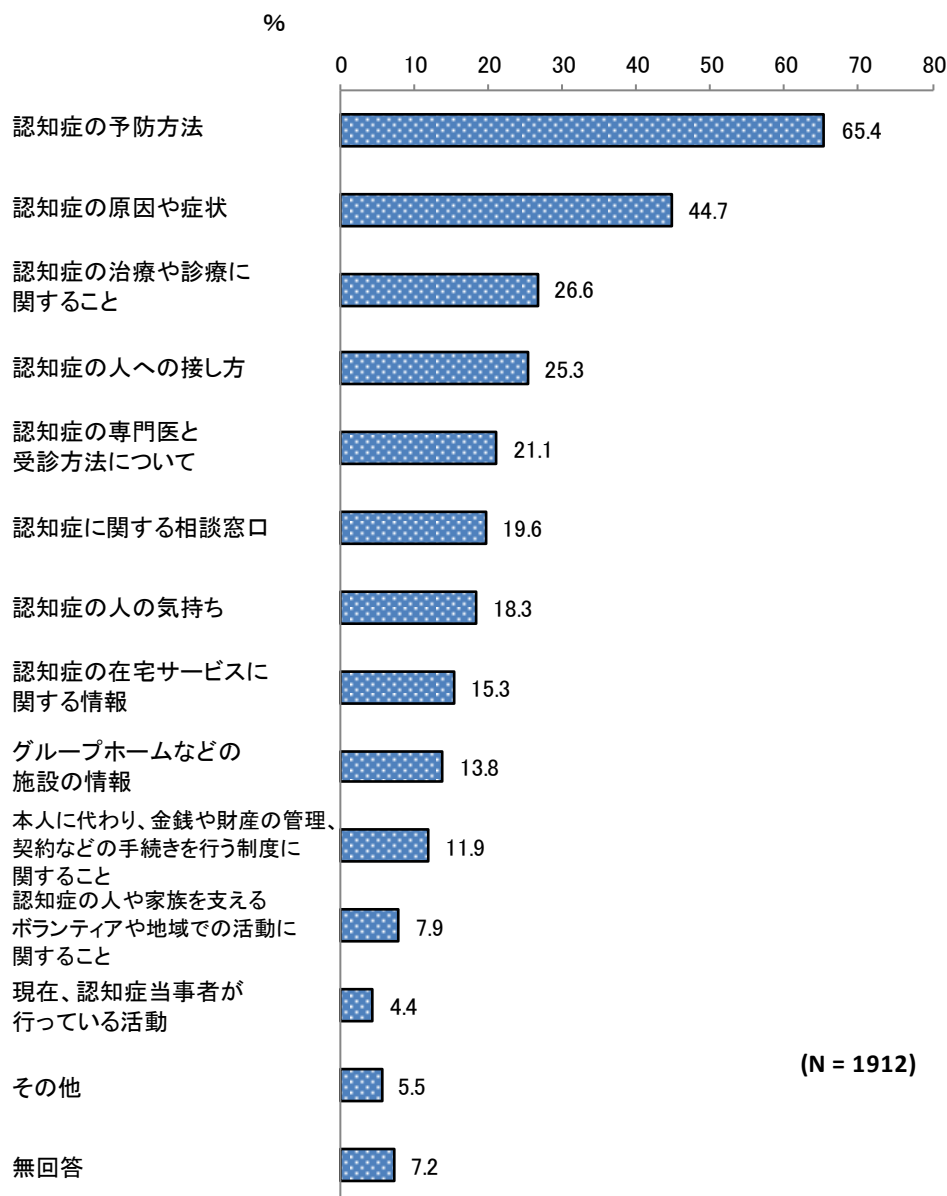


(4) 認知症（問 23・問 26）

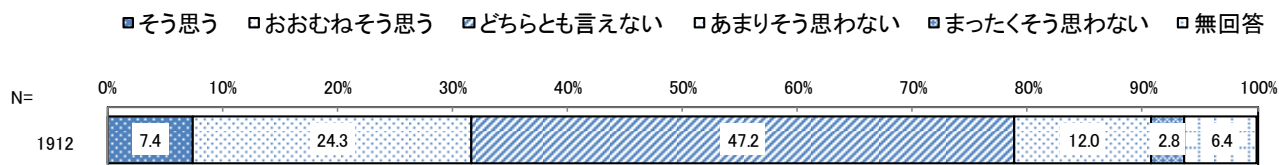
◇認知症に関して知りたい内容は、「認知症の予防方法」が65.4%で最も高く、次いで「認知症の原因や症状」が44.7%、「認知症の治療や診療に関すること」が26.6%となっている。【図表 3-2-9】

◇福岡市が認知症の人にとって安心して暮らし続けることができるまちであるかの認識は、「そう思う」の7.4%と、「おおむねそう思う」の24.3%を合わせた『思う』が31.7%となっている。【図表 3-2-10】

【図表 3-2-9 認知症に関して知りたい内容[複数回答]】



【図表 3-2-10 福岡市が認知症の人にとって安心して暮らし続けることができるまちであるかの認識】

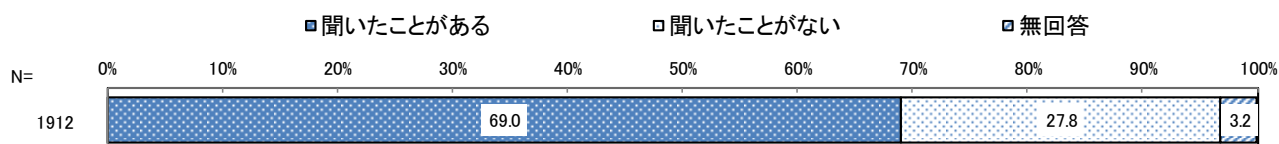


3. 医療・福祉

(1) いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）（問 28）

◇いきいきセンターふくおかについて、「聞いたことがある」が 69.0%、「聞いたことがない」が 27.8% となっている。【図表 3-3-1】

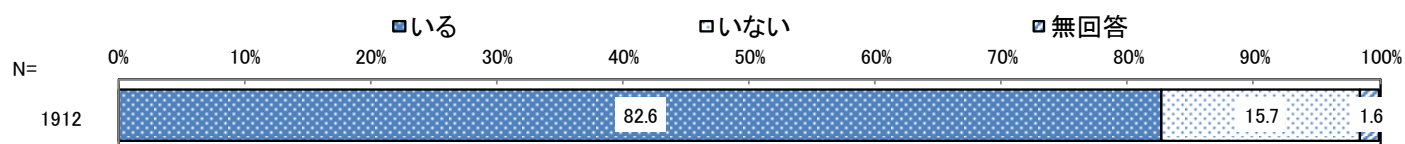
【図表 3-3-1 いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）の認知度】



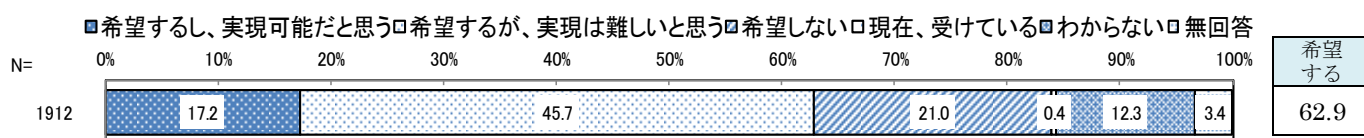
(2) 在宅医療（問 31・問 33・問 33-1・問 34）

◇かかりつけ医の有無は、「いる」が82.6%、「いない」が15.7%となっている。【図表 3-3-2】
 ◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」17.2%と「希望するが、実現は難しいと思う」45.7%を合わせた『希望する』が62.9%、「希望しない」が21.0%となっている。【図表 3-3-3】
 ◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が36.8%で最も高く、次いで「介護してくれる家族がないから」が12.2%となっている。【図表 3-3-4】
 ◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が35.4%で最も高く、次いで「自宅（親族の家を含む）」が25.8%となっている。【図表 3-3-5】

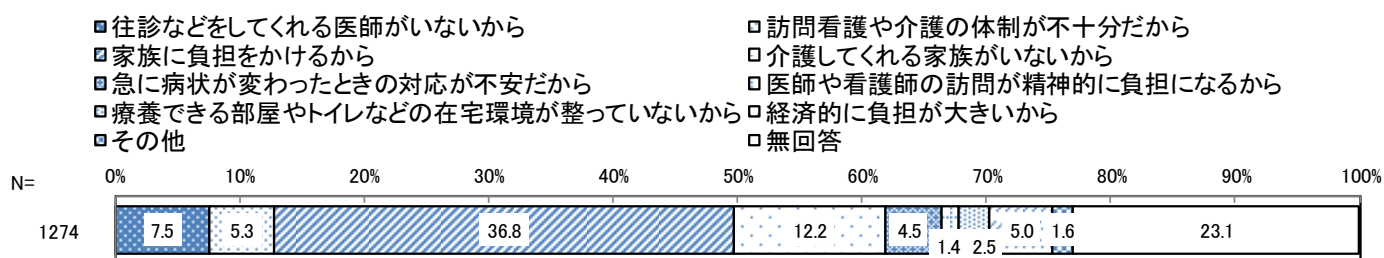
【図表 3-3-2 かかりつけ医の有無】



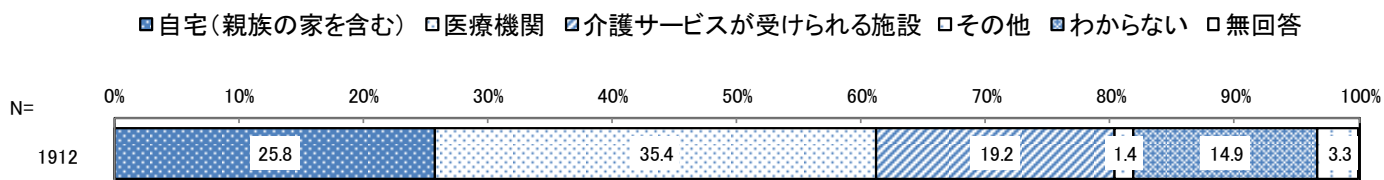
【図表 3-3-3 在宅医療の希望・実現可能性】



【図表 3-3-4 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【図表 3-3-5 最期を迎えたい場所】

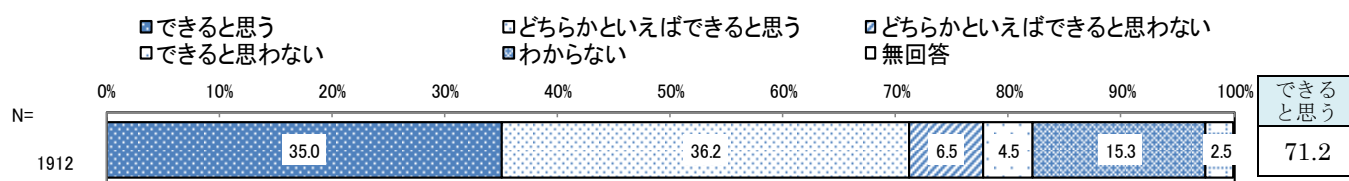


(3) 今後の介護意向（問 35・問 36）

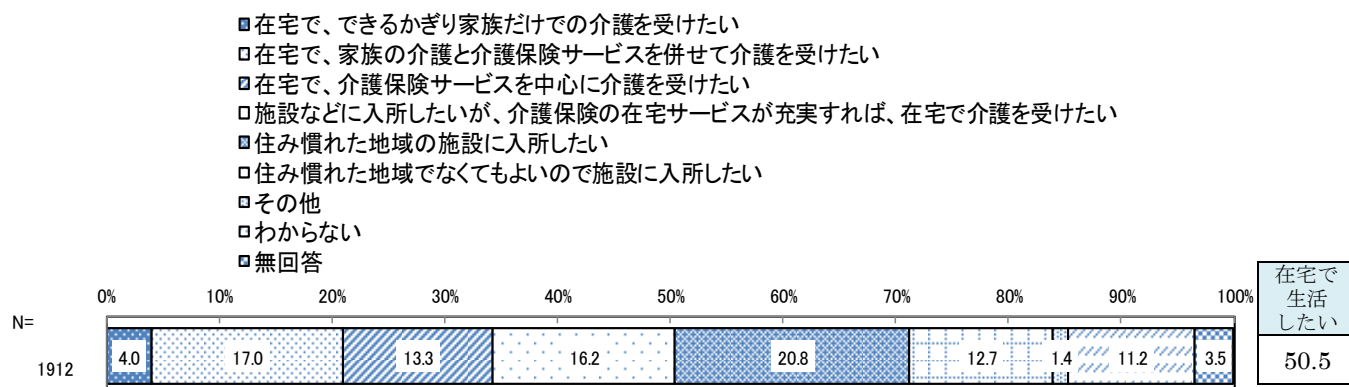
◇これから年齢を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うかは、「できると思う」が35.0%、「どちらかといえばできると思う」が36.2%で、これらを合わせた『できると思う』が71.2%となっている。【図表 3-3-6】

◇介護が必要になったときの意向は、「在宅で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」、「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」、「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、在宅で介護を受けたい」を合わせた『在宅で生活したい』が50.5%と半数を超えている。【図表 3-3-7】

【図表 3-3-6 住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うか】



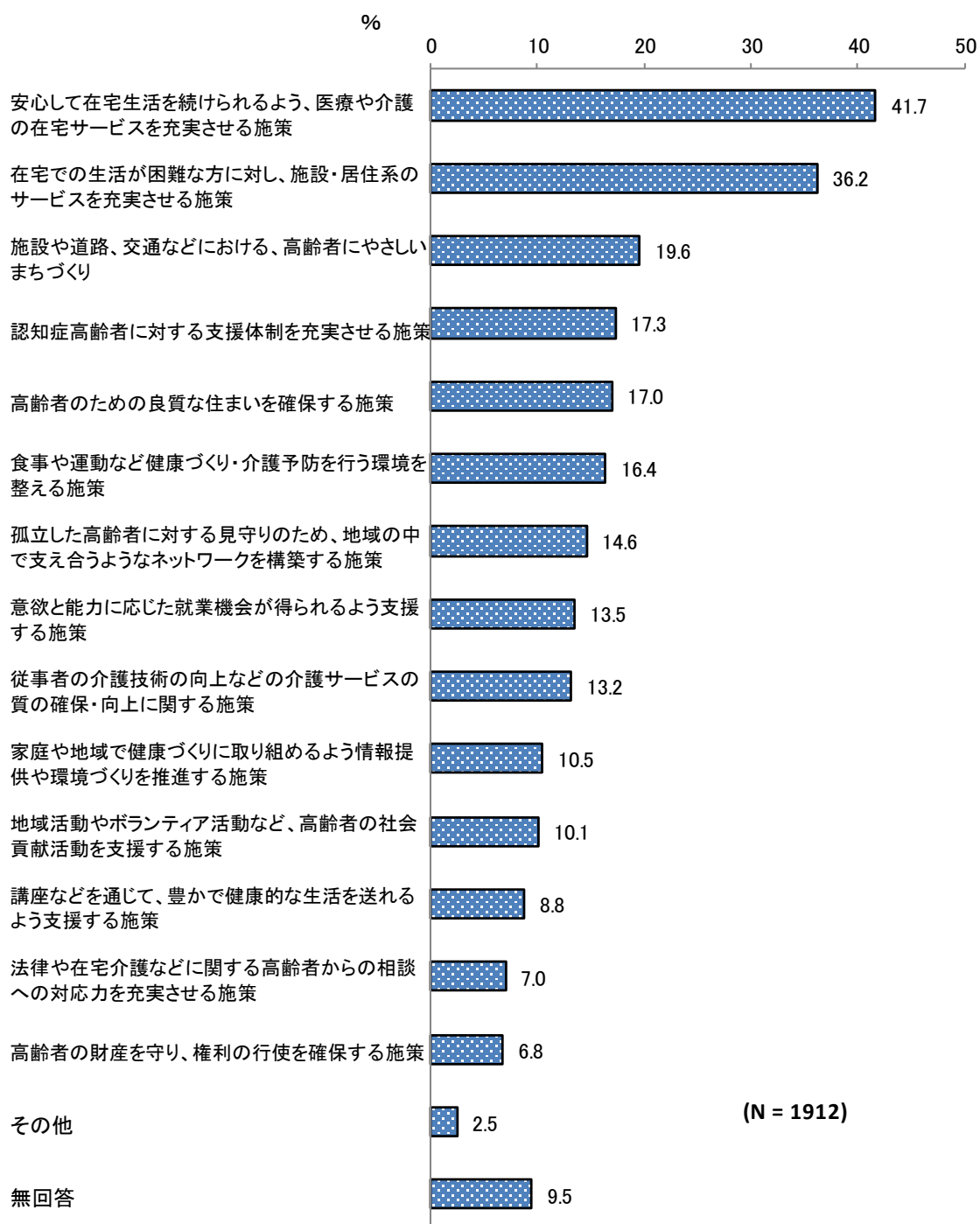
【図表 3-3-7 今後の介護の受け方の意向】



(4) 行政への要望 (問 40)

◇行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容は、「安心して在宅生活を続けられるよう、医療や介護の在宅サービスを充実させる施策」が 41.7%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難な方に対し、施設・居住系のサービスを充実させる施策」が 36.2%、「施設や道路、交通などにおける、高齢者にやさしいまちづくり」が 19.6%となっている。【図表 3-3-8】

【図表 3-3-8 行政に力を入れてほしい高齢者に関する施策の内容〔複数回答〕】



第4章 介護サービス調査共通設問

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」「施設等サービス利用者調査」の3つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

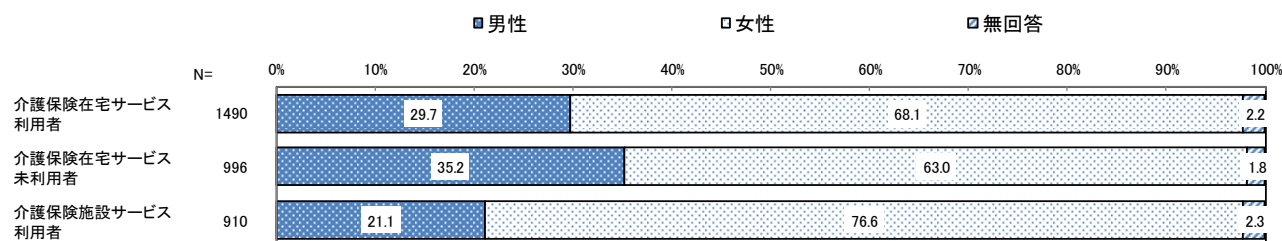
1. 回答者の属性

(1) 性別・年齢（利用者：問2・問3、未利用者：問2・問3、施設：問2・問3）

◇回答者の性別は、在宅サービス利用者では「男性」が29.7%、「女性」が68.1%、在宅サービス未利用者では「男性」が35.2%、「女性」が63.0%、施設サービス利用者では「男性」が21.1%、「女性」が76.6%となっている。【図表 4-1-1】

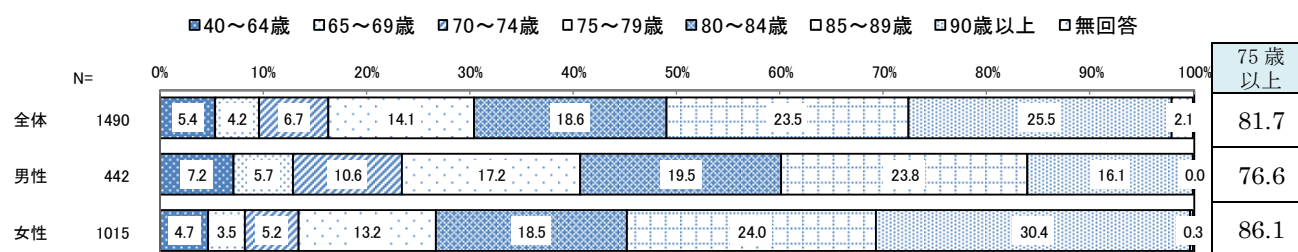
◇75歳以上の後期高齢者の割合は、在宅サービス利用者では81.7%、在宅サービス未利用者では85.6%、施設サービス利用者では89.1%となっている。【図表 4-1-2】

【図表 4-1-1 性別】

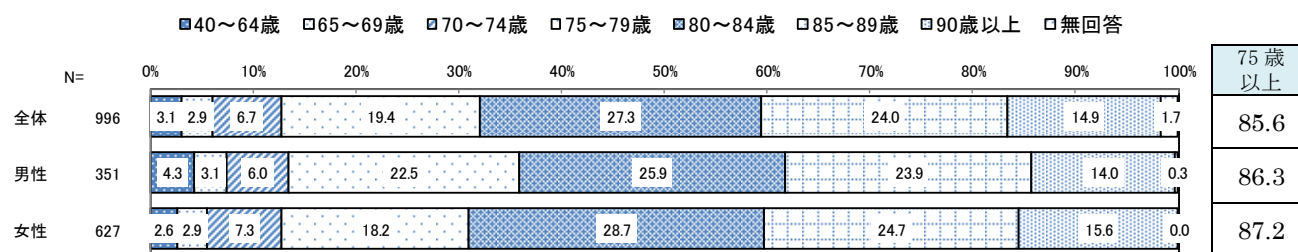


【図表 4-1-2 年齢（性別）】

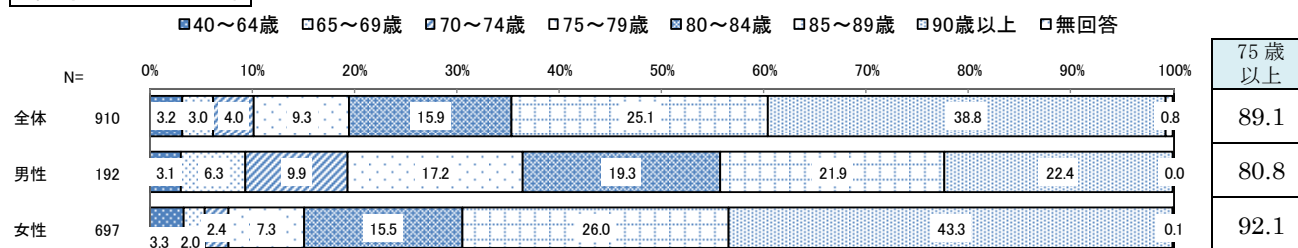
在宅サービス利用者



在宅サービス未利用者



施設等サービス利用者

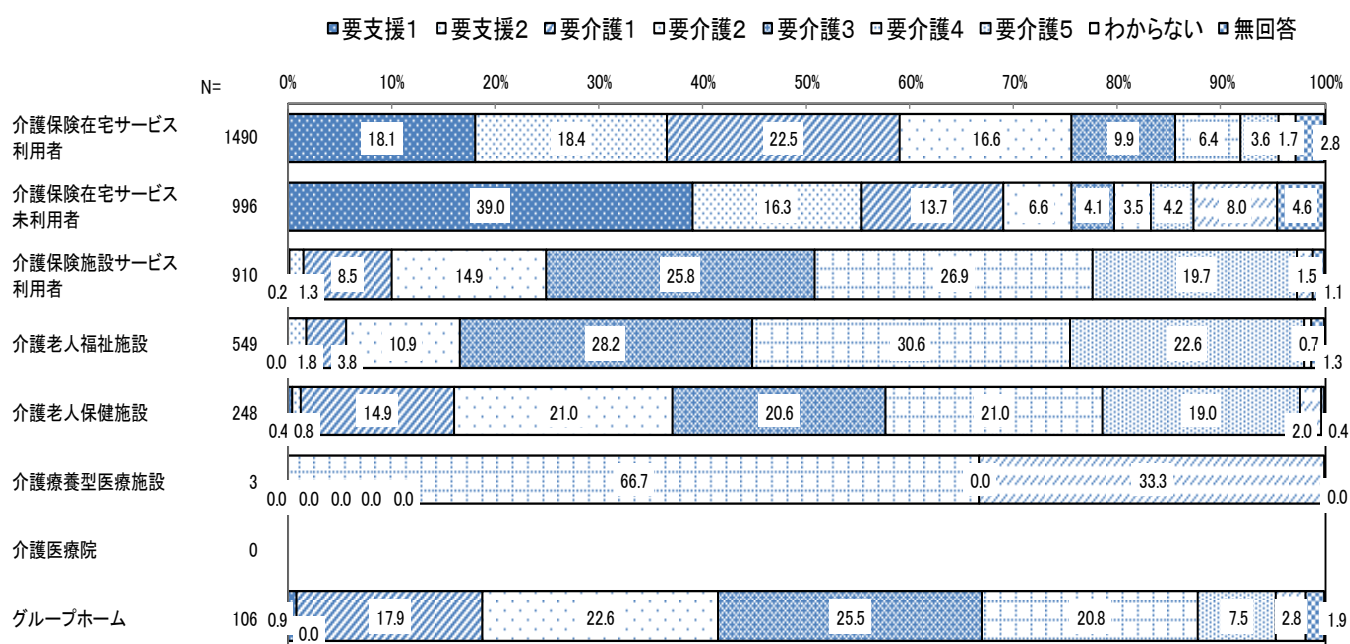


(2) 要介護度（利用者：問7、未利用者：問7、施設：問4）

◇回答者の要介護度は、在宅サービス利用者と在宅サービス未利用者ともに要介護度が軽い人が半数を超えており、「要支援1」「要支援2」「要介護1」を合わせた『要介護1以下』が、在宅サービス利用者では59.0%、在宅サービス未利用者では69.0%となっている。【図表4-1-3】

◇施設サービス利用者では要介護度が重い人が多く、「要介護3」「要介護4」「要介護5」を合わせた『要介護3以上』が72.4%となっている。施設別にみると、介護老人福祉施設の『要介護3以上』は、81.4%となっている。【図表4-1-3】

【図表4-1-3 要介護度（施設別）】



	要介護 1 以下	要介護 3 以上
介護保険在宅サービス利用者	59.0	19.9
介護保険在宅サービス未利用者	69.0	11.8
介護保険施設サービス利用者	10.0	72.4
（施設別）介護老人福祉施設	5.6	81.4
（施設別）介護老人保健施設	16.1	60.6
（施設別）介護療養型医療施設	0.0	66.7
（施設別）介護医療院	0.0	0.0
（施設別）グループホーム	18.8	53.8

2. 在宅医療

(利用者：問 19・問 22・問 22－1・問 24、未利用者：問 24・問 27・問 27－1・問 28、施設：問 13)

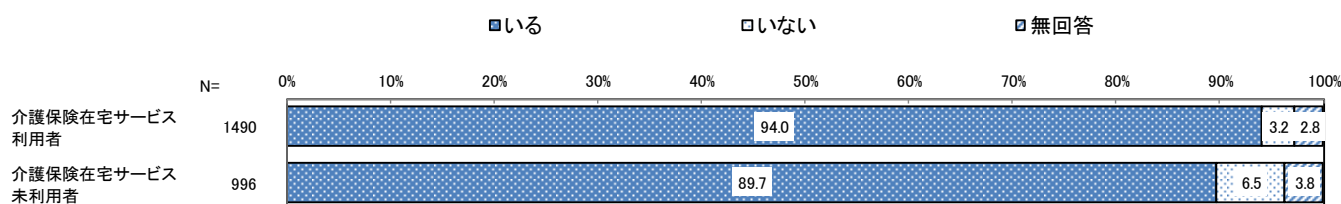
◇かかりつけ医の有無は、「いる」が在宅サービス利用者では 94.0%、在宅サービス未利用者では 89.7%となっている。【図表 4-2-1】

◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が、在宅サービス利用者では 42.6%、在宅サービス未利用者では 37.7%となっている。また、「希望しない」が在宅サービス利用者では 21.4%、在宅サービス未利用者では 17.6%となっている。【図表 4-2-2】

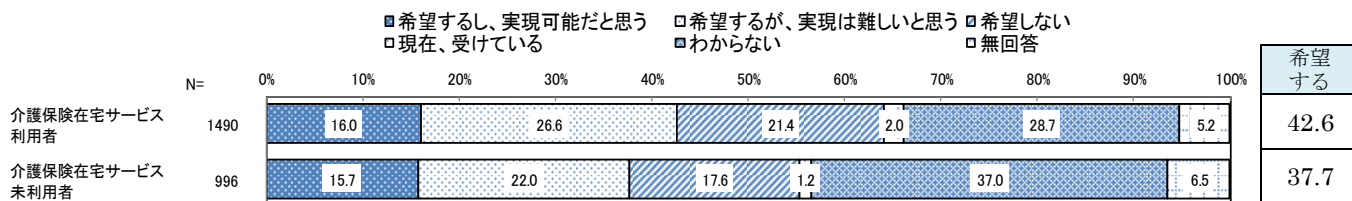
◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が在宅サービス利用者で 34.1%、在宅サービス未利用者で 25.6%とそれぞれ最も高く、次いで在宅サービス利用者では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 14.1%、在宅サービス未利用者では「介護してくれる家族がいないから」が 13.2%となっている。【図表 4-2-3】

◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が在宅サービス利用者で 28.6%、在宅サービス未利用者で 31.4%とそれぞれ最も高く、次いで「自宅（家族や親族の家を含む）」が在宅サービス利用者で 28.5%、在宅サービス未利用者で 23.9%となっている。施設サービス利用者では、「現在、入っている施設」が 42.3%で最も高くなっている。【図表 4-2-4】

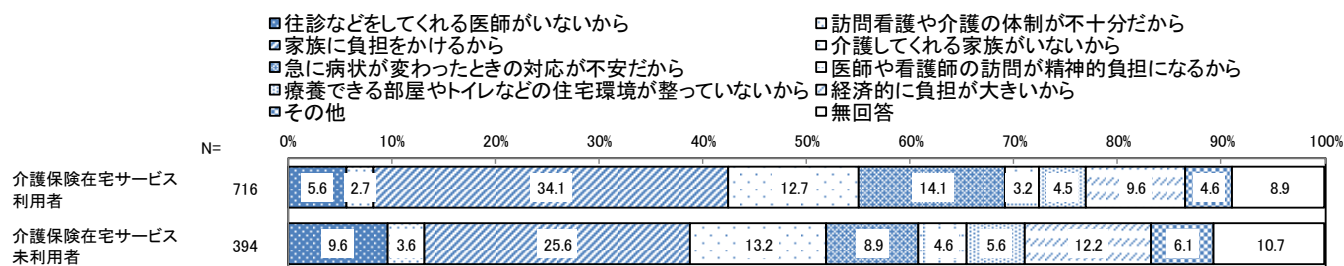
【図表 4-2-1 かかりつけ医の有無】



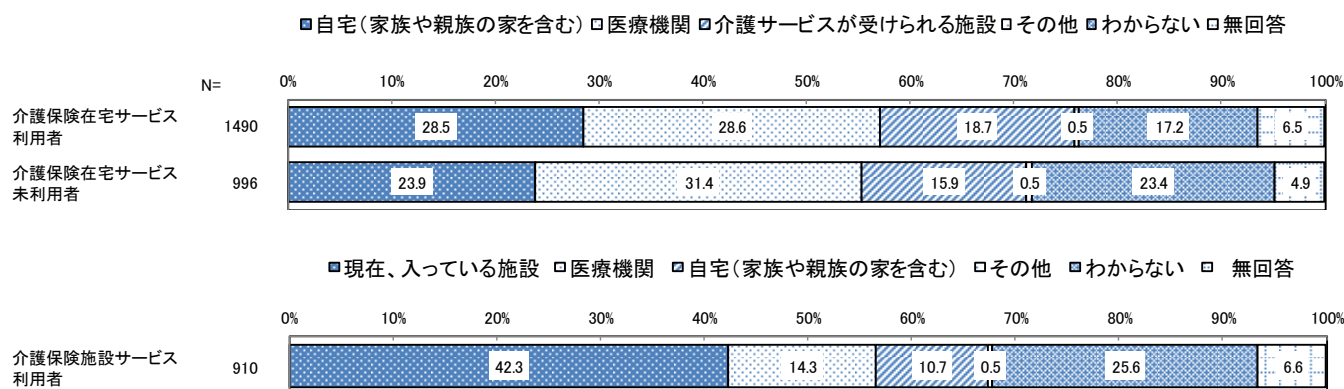
【図表 4-2-2 在宅医療の希望・実現可能性】



【図表 4-2-3 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【図表 4-2-4 最期を迎えたい場所】



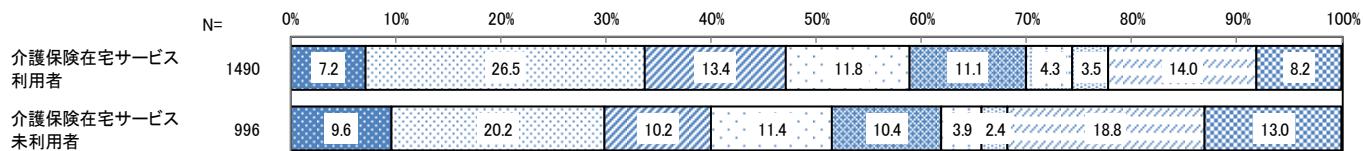
3. 今後の介護の受け方

(利用者：問 23、未利用者：問 35)

◇今後の介護の受け方は、「在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』の割合が在宅サービス利用者では 58.9%、在宅サービス未利用者では 51.4%となっている。【図表 4-3-1】

【図表 4-3-1 今後の介護の受け方（本人）】

- 在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい
- 在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい
- 在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい
- 施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい
- 住み慣れた地域の施設に入所したい
- 住み慣れた地域でなくてもよいので施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



	在宅で生活したい
介護保険在宅サービス利用者	58.9
介護保険在宅サービス未利用者	51.4

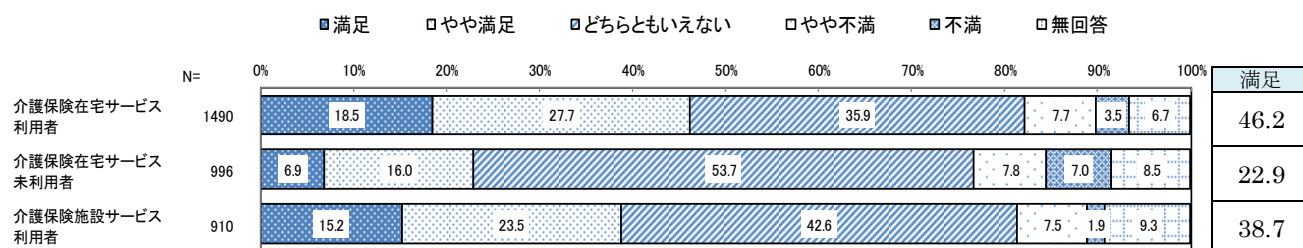
4. 介護保険制度

(利用者：問 28・問 29、未利用者：問 29・問 30、施設：問 21・問 22)

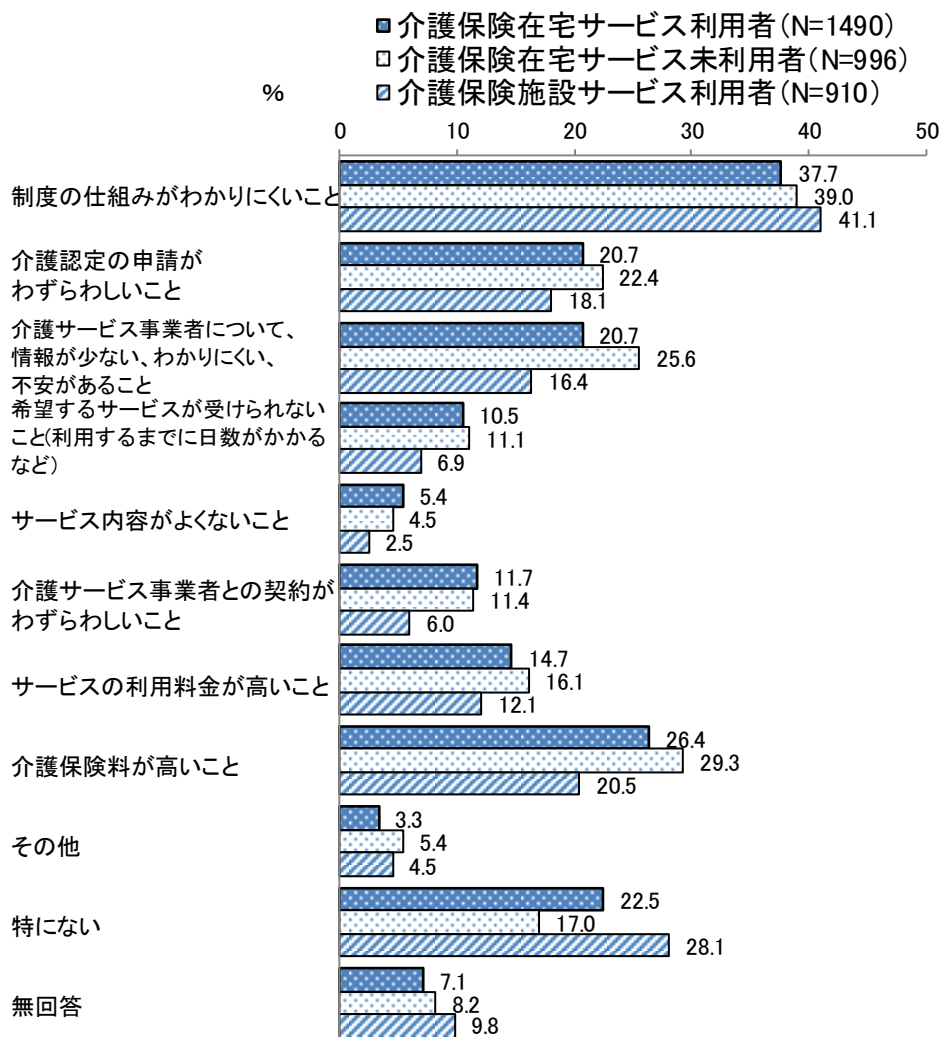
◇介護保険制度全体の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が在宅サービス利用者では 46.2%、在宅サービス未利用者が 22.9%、施設サービス利用者では 38.7%となっている。【図表 4-4-1】

◇介護保険制度で不満に思うことは、「制度の仕組みがわかりにくいこと」が在宅サービス利用者で 37.7%、在宅サービス未利用者が 39.0%、施設サービス利用者で 41.1%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-4-2】

【図表 4-4-1 介護保険制度全体の満足度】



【図表 4-4-2 介護保険制度で不満に思うこと〔複数回答〕】



5. 介護者

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」の2調査において、主に介護をしている方の状況も回答してもらった。

(1) 介護者の属性

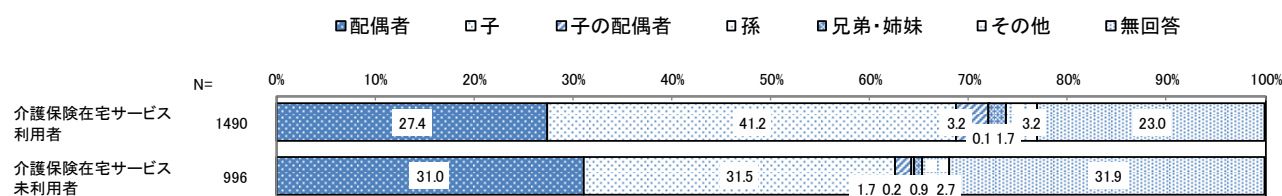
(利用者：問 36・問 37・問 38・問 39、未利用者：問 35・問 36・問 37・問 38)

◇主な介護者の続柄は、「子」が在宅サービス利用者で41.2%、在宅サービス未利用者で31.5%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-5-1】

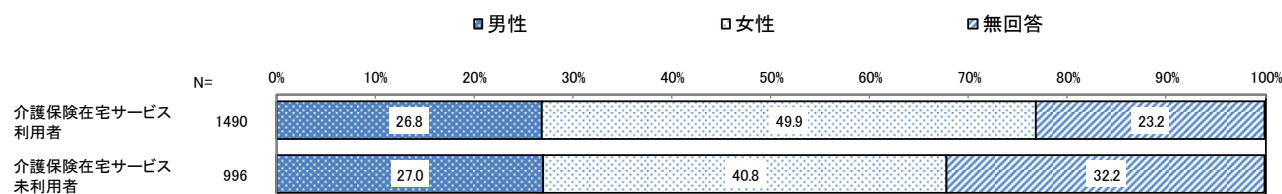
◇主な介護者の同居状況は、在宅サービス利用者では「同居」が54.8%、「別居」が22.1%、在宅サービス未利用者では「同居」が51.3%、「別居」が16.7%となっている。【図表 4-5-3】

◇主な介護者の年齢は、『60代以上』が、在宅サービス利用者では55.5%、在宅サービス未利用者では46.6%となっており、5割前後となっている。【図表 4-5-4】

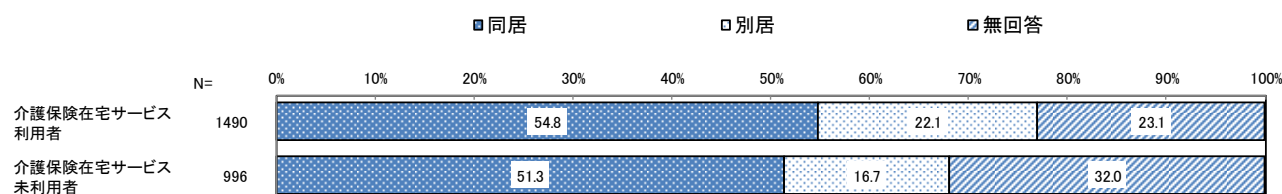
【図表 4-5-1 主な介護者の続柄】



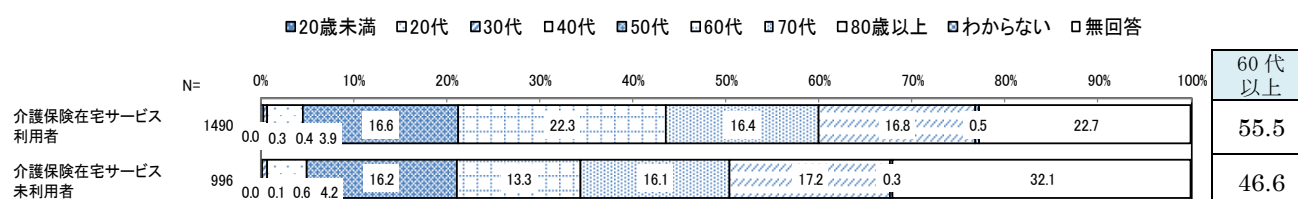
【図表 4-5-2 主な介護者の性別】



【図表 4-5-3 主な介護者の同居状況】



【図表 4-5-4 主な介護者の年齢】



60代以上
55.5
46.6

(2) 介護者の就業

(利用者：問 40・問 41・問 41-1・問 41-3、未利用者：問 39・問 40・問 40-1・問 40-3)

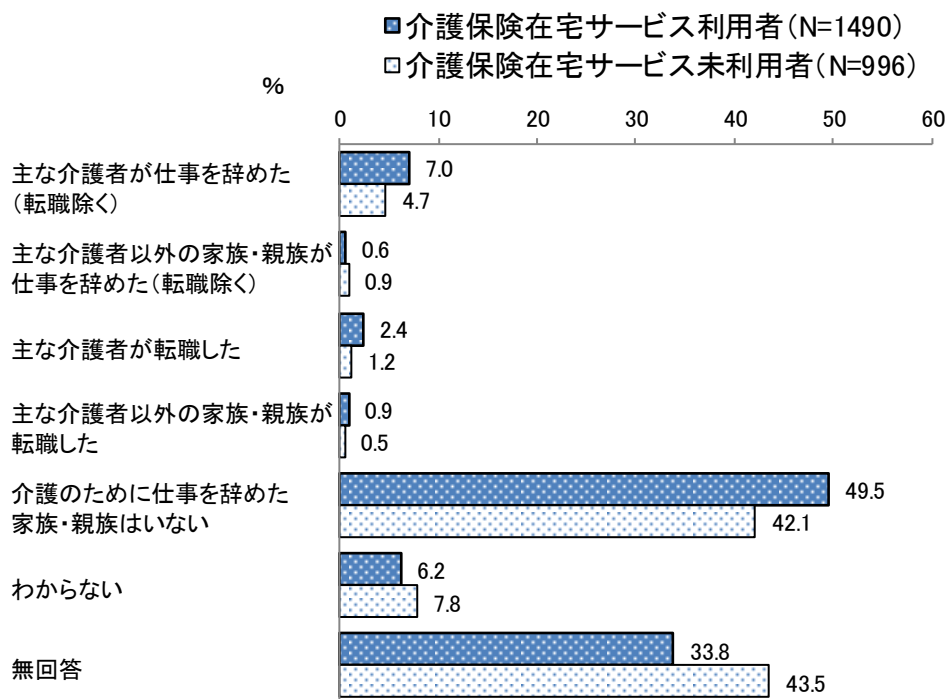
◇介護離職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が在宅サービス利用者で 49.5%、在宅サービス未利用者で 42.1%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-5-5】

◇主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』が、在宅サービス利用者では 32.3%、在宅サービス未利用者では 29.1%となっている。【図表 4-5-6】

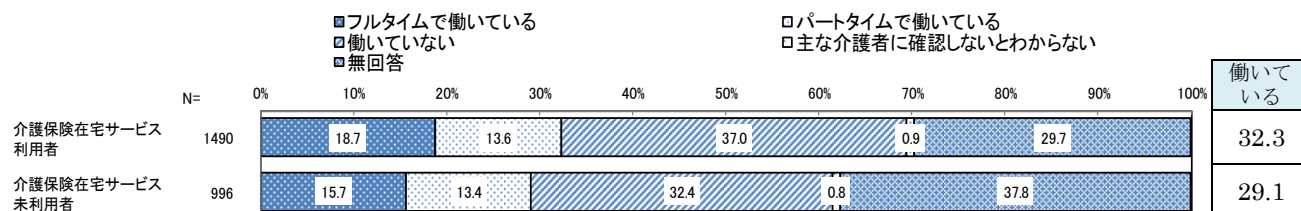
◇主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況は、「特に行っていない」が最も高く、介護保険在宅サービス利用者で 39.6%、未利用者で 51.2%となっている。【図表 4-5-7】

◇主な介護者の仕事と介護の両立継続可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が在宅サービス利用者で 46.7%、在宅サービス未利用者で 39.8%と、ともに最も高くなっている。【図表 4-5-8】

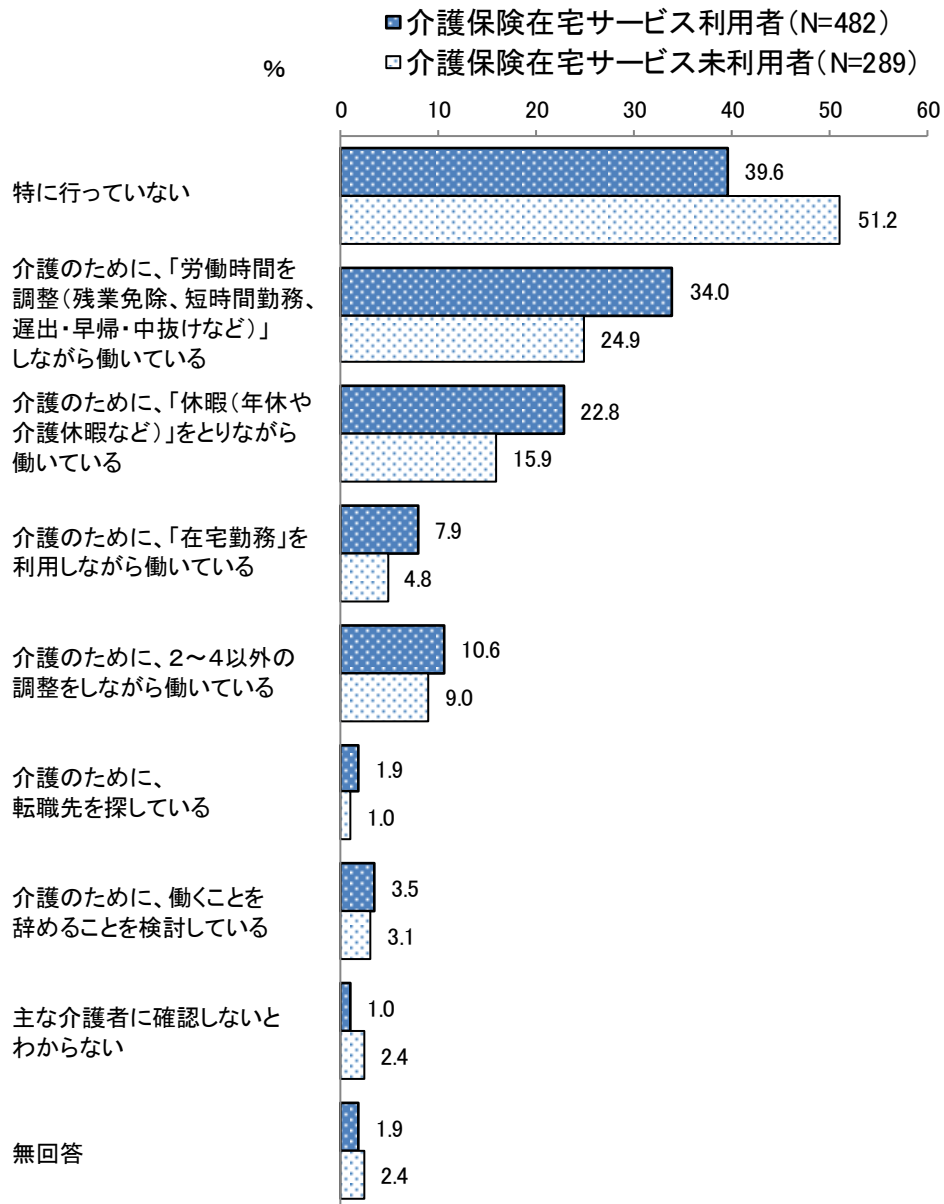
【図表 4-5-5 介護離職の状況[複数回答]】



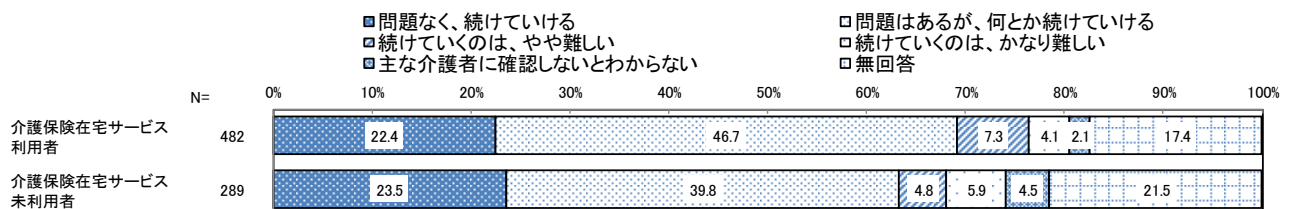
【図表 4-5-6 主な介護者の勤務形態】



【図表 4-5-7 主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況〔複数回答〕】



【図表 4-5-8 主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性】



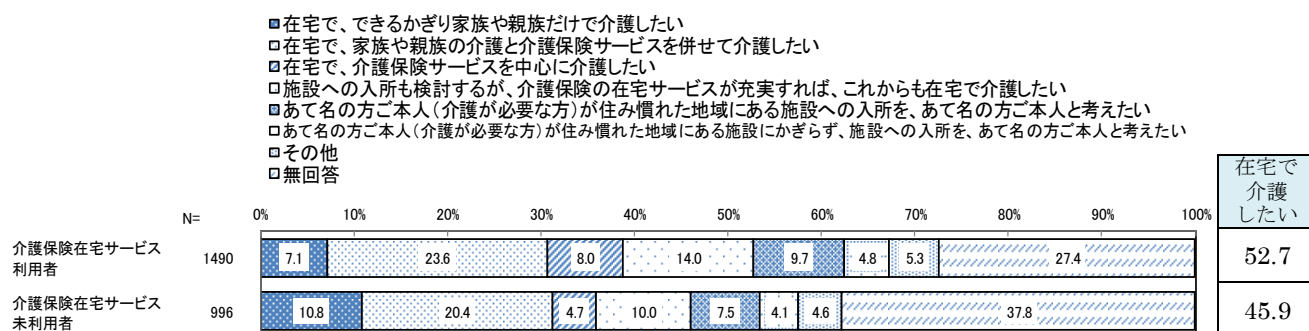
(3) 今後の介護の仕方

(利用者：問 46・問 47、未利用者：問 44・問 45)

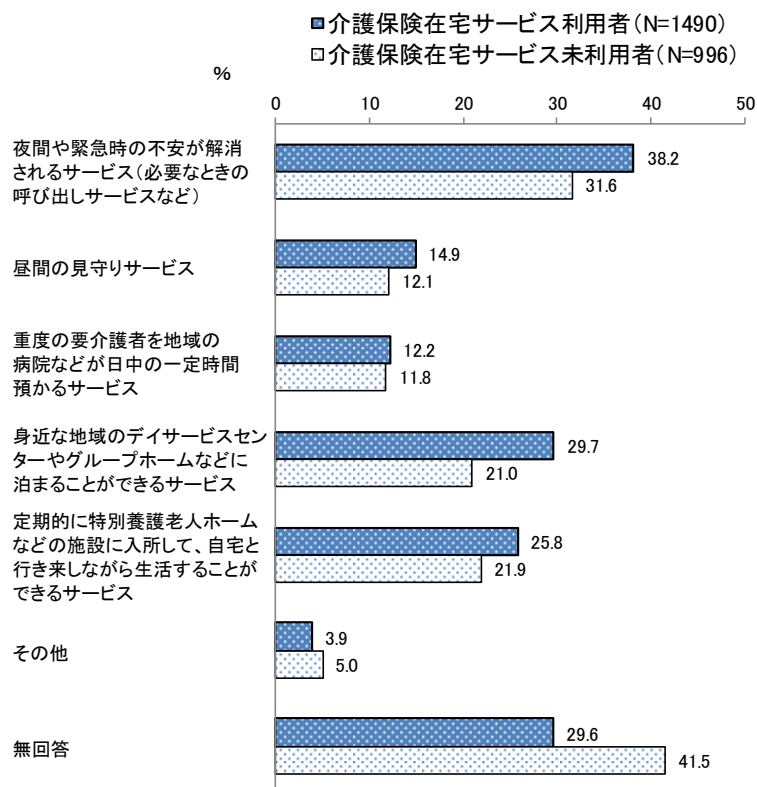
◇今後の介護の仕方は、『在宅で介護したい』(「在宅で、できるかぎり家族や親族だけで介護したい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護したい」「施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で介護したい」の合計)が、在宅サービス利用者では 52.7%、在宅サービス未利用者では 45.9% となっている。【図表 4-5-9】

◇在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容は、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス(必要なときの呼び出しサービスなど)」が在宅サービス利用者で 38.2%、在宅サービス未利用者で 31.6%と、ともに最も高くなっている。【図表 4-5-10】

【図表 4-5-9 今後の介護の仕方】



【図表 4-5-10 在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容[複数回答】】



第5章 介護保険在宅サービス利用者調査

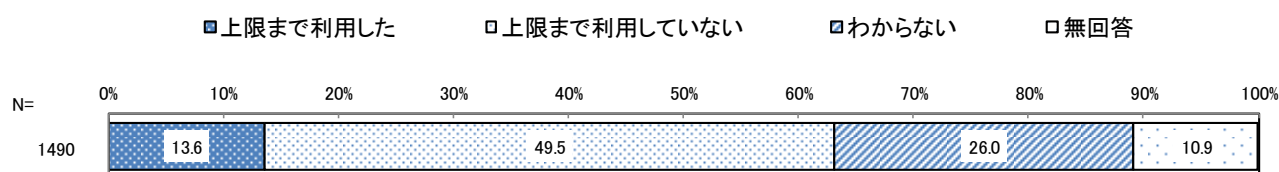
1. 介護保険サービスの利用状況

(問18・問18-1)

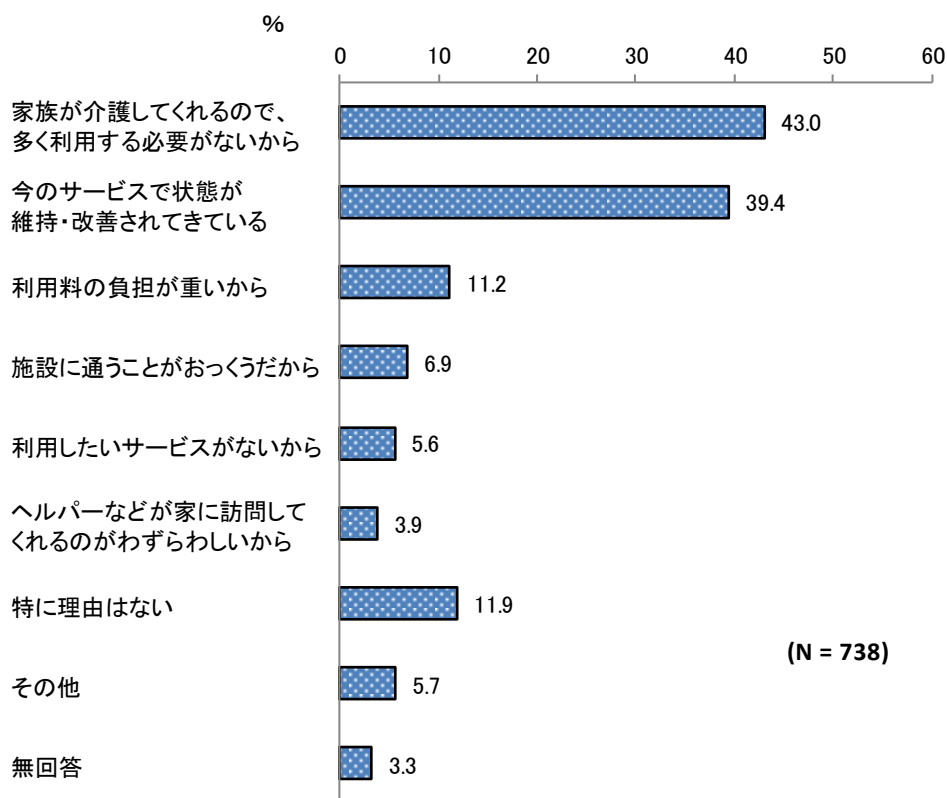
◇介護保険サービスの利用状況は、「上限まで利用していない」が49.5%、「上限まで利用した」が13.6%となっている。【図表5-1-1】

◇利用額上限まで利用していない理由としては、「家族が介護してくれるので、多く利用する必要がないから」が43.0%で最も高く、次いで「今のサービスで状態が維持・改善されてきている」が39.4%となっている。【図表5-1-2】

【図表5-1-1 利用額上限までの利用の有無】



【図表5-1-2 利用額の上限まで利用していない理由[複数回答]】

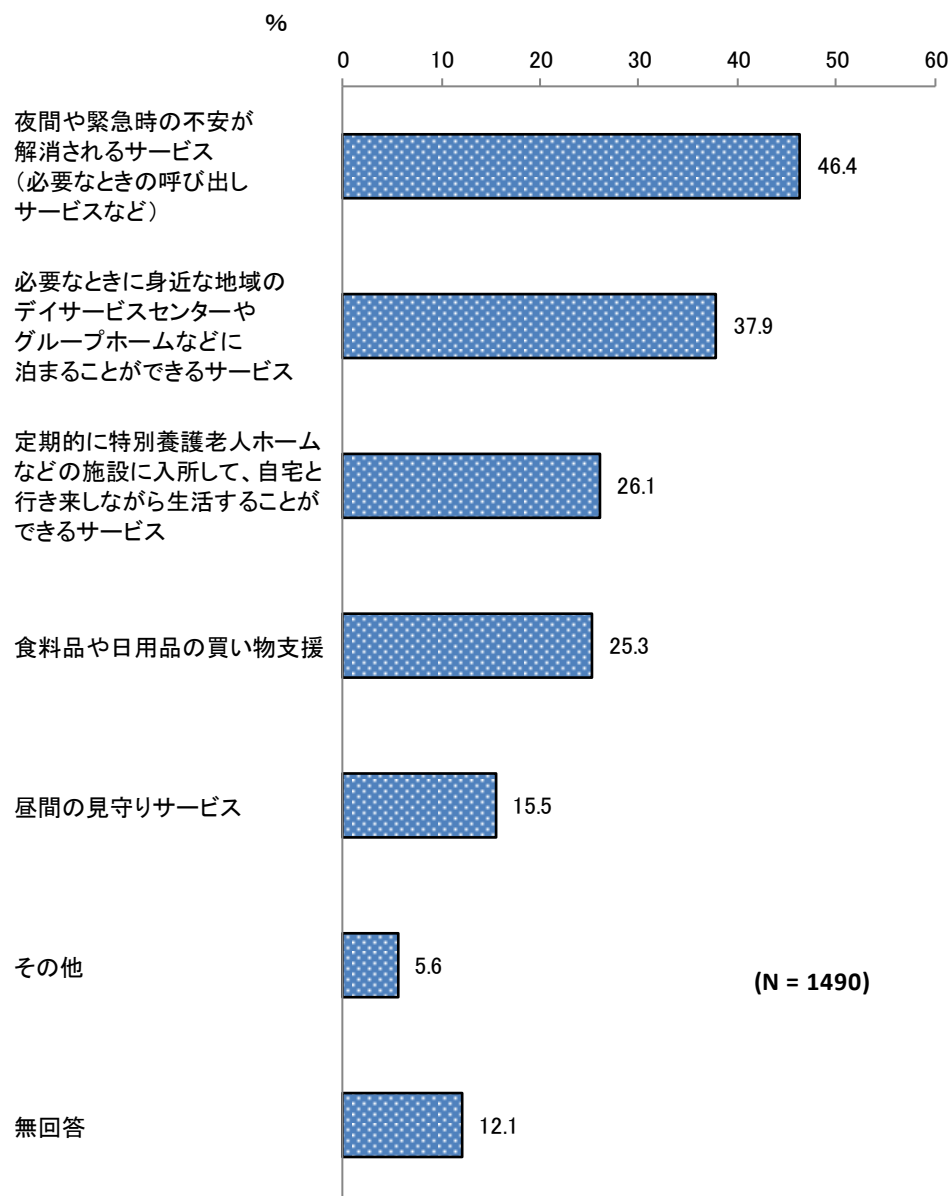


2. 在宅で生活するために必要性が高いサービス

(問 25)

◇在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が 46.4%で最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることのできるサービス」が 37.9%となっている。【図表 5-2-1】

【図表 5-2-1 在宅生活で必要性が高いサービス[複数回答]】



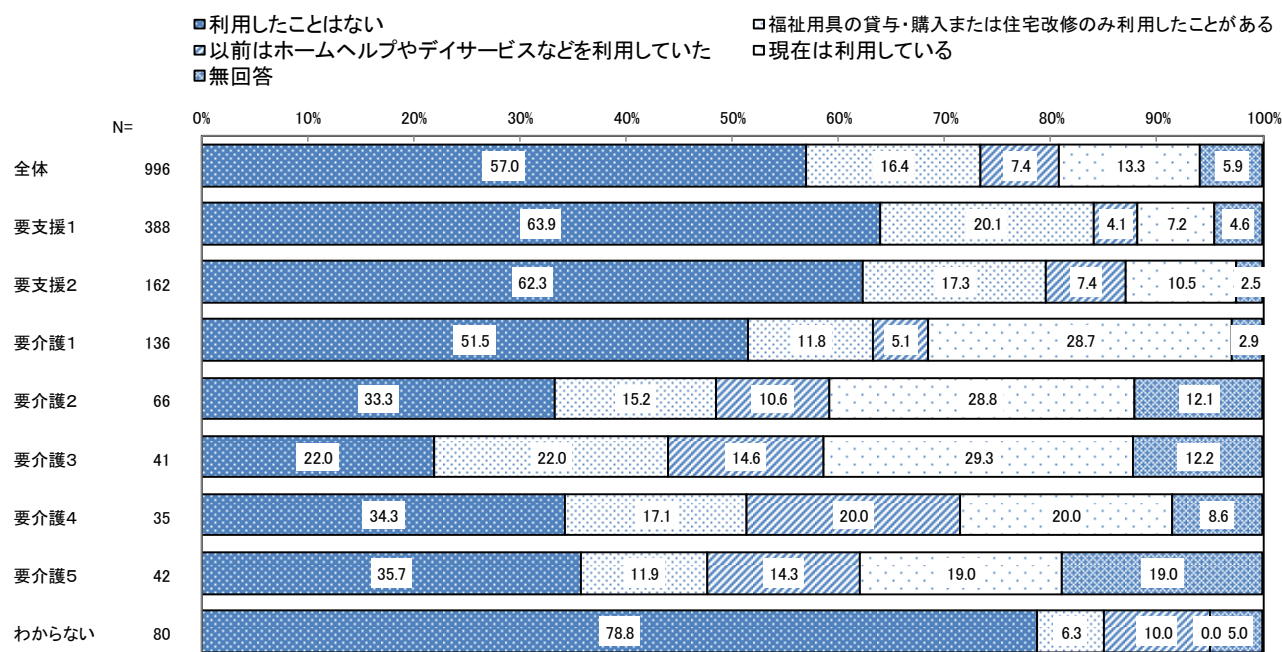
第6章 介護保険在宅サービス未利用者調査

1. 介護保険サービスの利用状況

(1) 在宅サービスの利用経験（問 19）

◇介護保険の在宅サービスの利用経験は、「利用したことはない」が57.0%となっており、特に要支援1で63.9%、要支援2で62.3%、要介護1で51.5%と、要介護度が軽いほど概ねその割合が高い傾向にある。【図表 6-1-1】

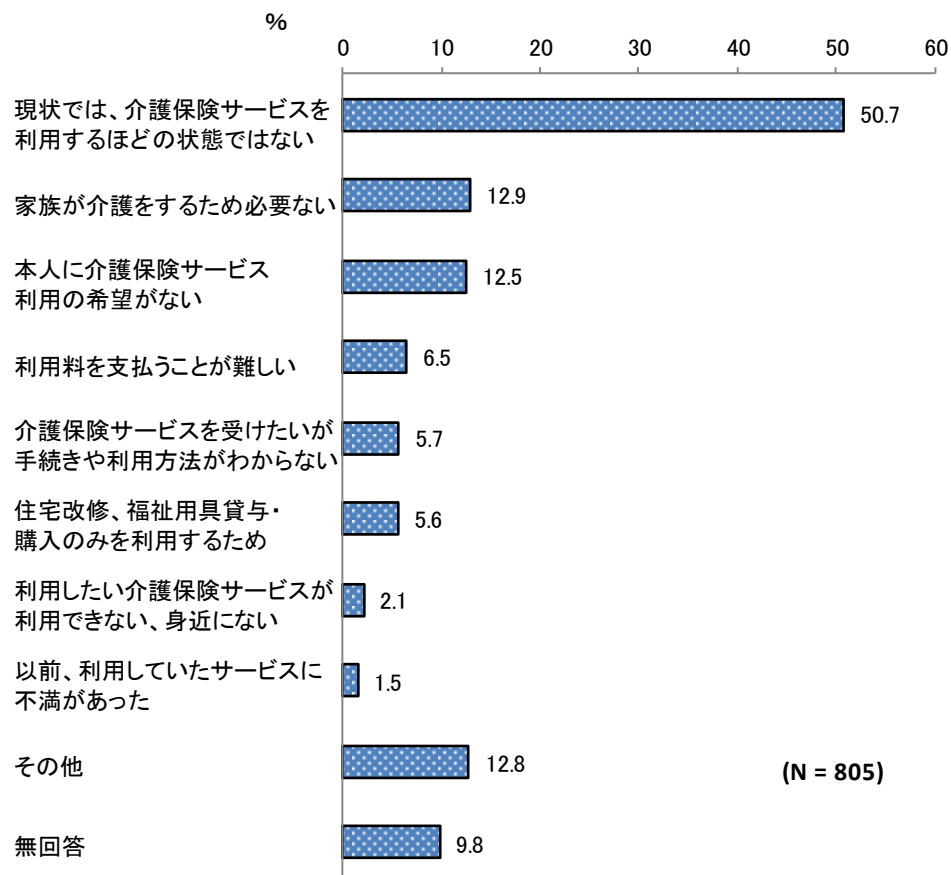
【図表 6-1-1 介護保険の在宅サービスの利用経験（要介護度別）】



(2) 在宅サービスを利用していない理由 (問 19-1)

◇在宅サービスを利用していない理由は、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が50.7%で最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が12.9%、「本人に介護保険サービス利用の希望がない」が12.5%となっている。【図表 6-1-2】

【図表 6-1-2 介護保険の在宅サービスを利用していない理由[複数回答]】



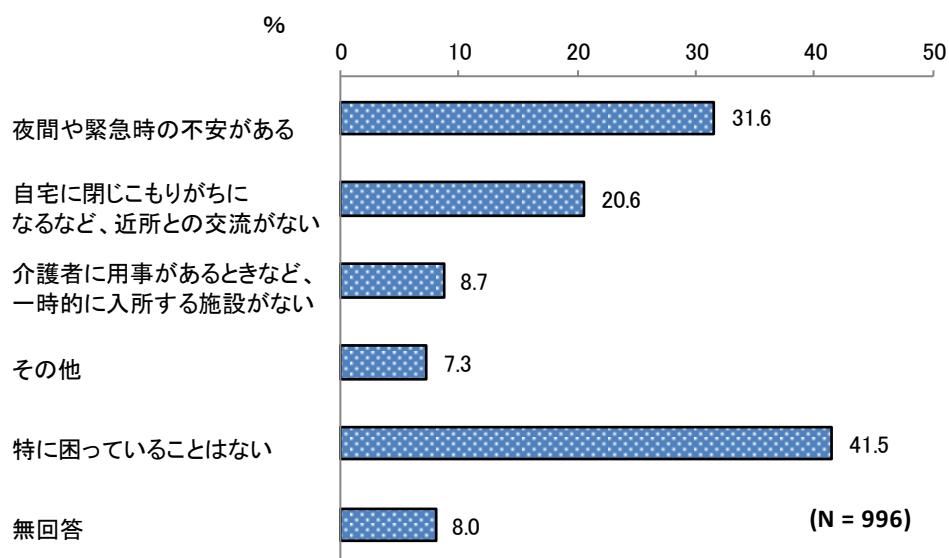
2. 今後の介護保険サービスの利用

(問 20・問 21)

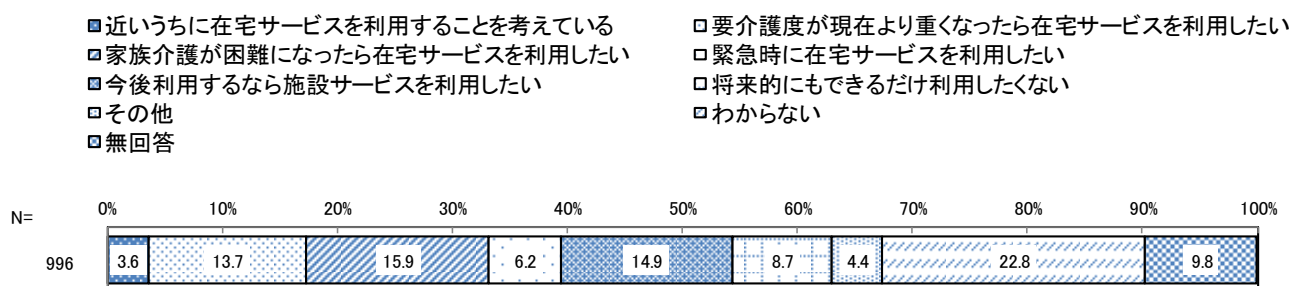
◇在宅で生活する上で困っていることは、「特に困っていることはない」が41.5%で最も高く、次いで「夜間や緊急時の不安がある」が31.6%、「自宅に閉じこもりがちになるなど、近所との交流がない」が20.6%となっている。【図表 6-2-1】

◇今後の介護サービスの利用意向は、「わからない」を除くと、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」が15.9%で最も高く、次いで「今後利用するなら施設サービスを利用したい」が14.9%、「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」が13.7%となっている。【図表 6-2-2】

【図表 6-2-1 在宅で生活する上で困っていること〔複数回答〕】



【図表 6-2-2 今後の介護サービスの利用意向】



第7章 介護保険施設等サービス利用者調査

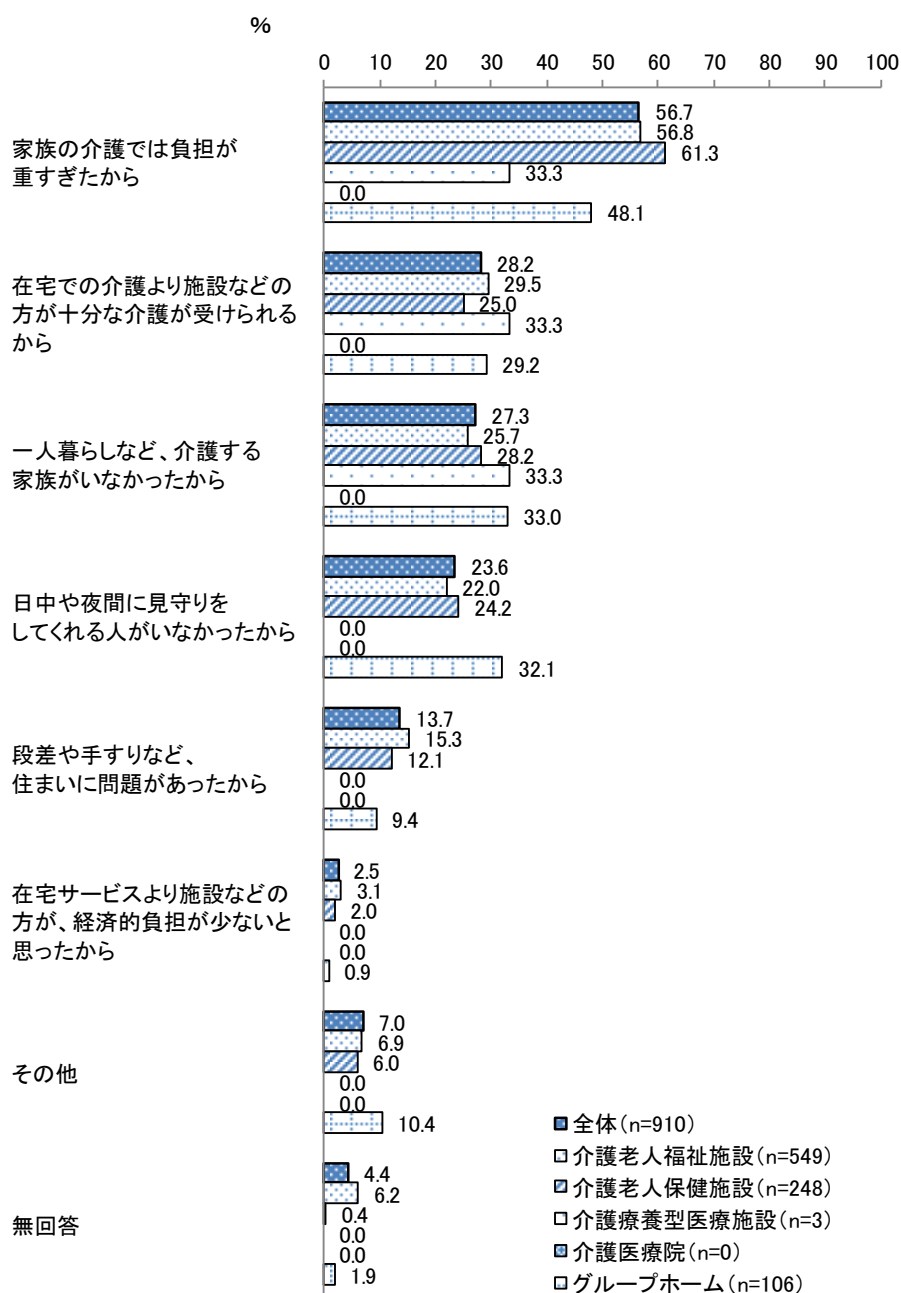
1. 施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度

(問10・問20)

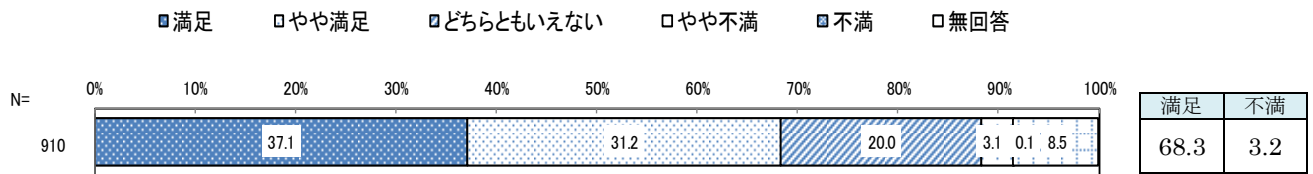
◇施設等への入所を希望した理由は、「家族の介護では負担が重すぎたから」が56.7%で最も高く、次いで「在宅での介護より施設などの方が十分な介護が受けられるから」が28.2%、「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が27.3%となっている。介護老人保健施設では「家族の介護では負担が重すぎたから」が61.3%と、他施設と比べて高くなっている。【図表7-1-1】

◇現在の施設への満足度は、「満足」37.1%と「やや満足」31.2%を合わせた『満足』が68.3%、「不満」0.1%と「やや不満」3.1%を合わせた『不満』が3.2%となっている。【図表7-1-2】

【図表 7-1-1 施設等への入所を希望した理由（施設別）】



【図表 7-1-2 現在の施設の満足度】

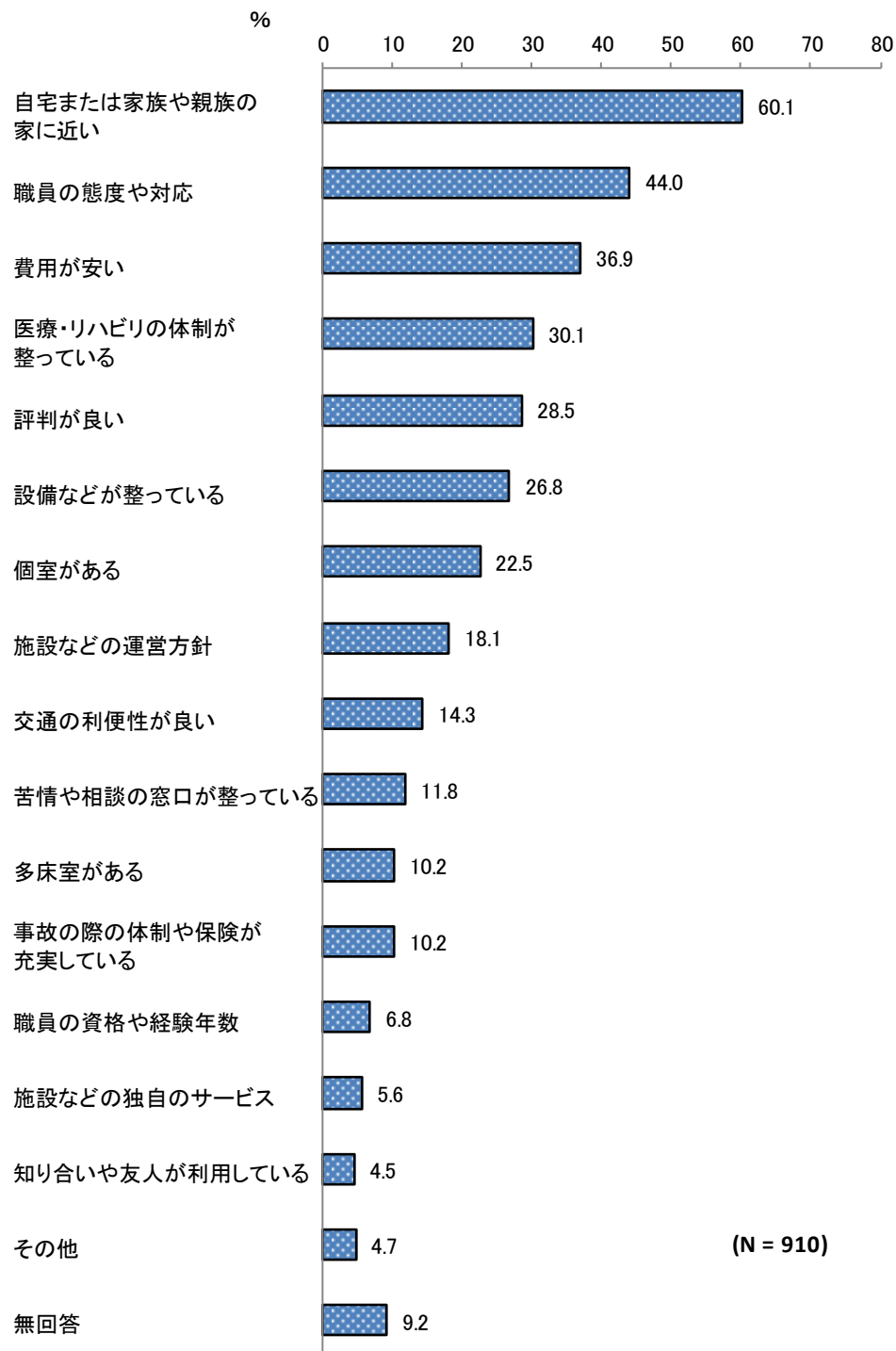


2. 施設等を選ぶときに重視する点

(問 19)

◇施設等を選ぶときに重視する点は、「自宅または家族や親族の家に近い」が60.1%で最も高く、次いで「職員の態度や対応」が44.0%、「費用が安い」が36.9%となっている。【図表 7-2-1】

【図表 7-2-1 施設等を選ぶときに重視する点〔複数回答〕】



第8章 介護支援専門員調査

1. 回答者の属性

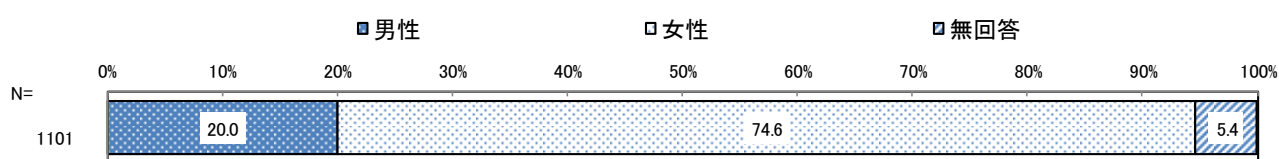
(問1・問2・問3)

◇回答者の性別は、「男性」が20.0%、「女性」が74.6%となっている。【図表8-1-1】

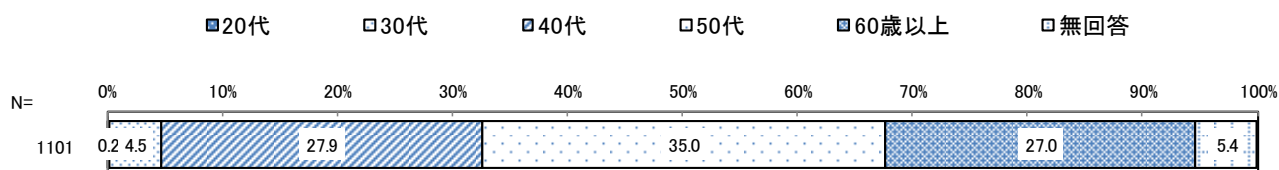
◇年齢は、「50代」が35.0%で最も高く、次いで「40代」が27.9%、「60歳以上」が27.0%となっている。【図表8-1-2】

◇介護支援専門員としての経験年数は、「6年以上」が67.8%で最も高く、次いで「3年～6年未満」が12.0%、「1年未満」が5.4%となっている。【図表8-1-3】

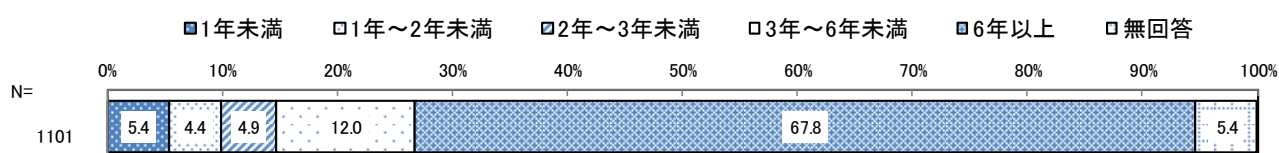
【図表 8-1-1 性別】



【図表 8-1-2 年齢】



【図表 8-1-3 介護支援専門員としての経験年数】



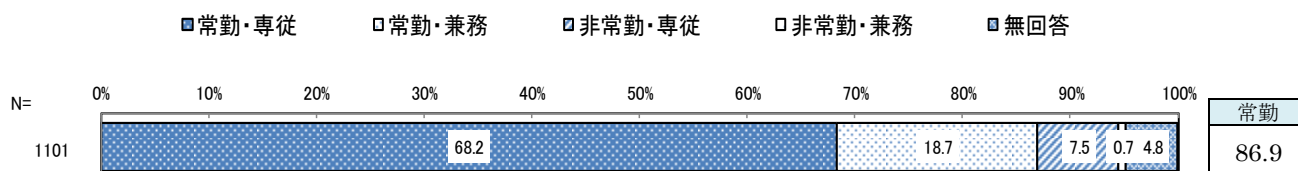
2. 勤務形態・兼務内容

(問6・問6-1)

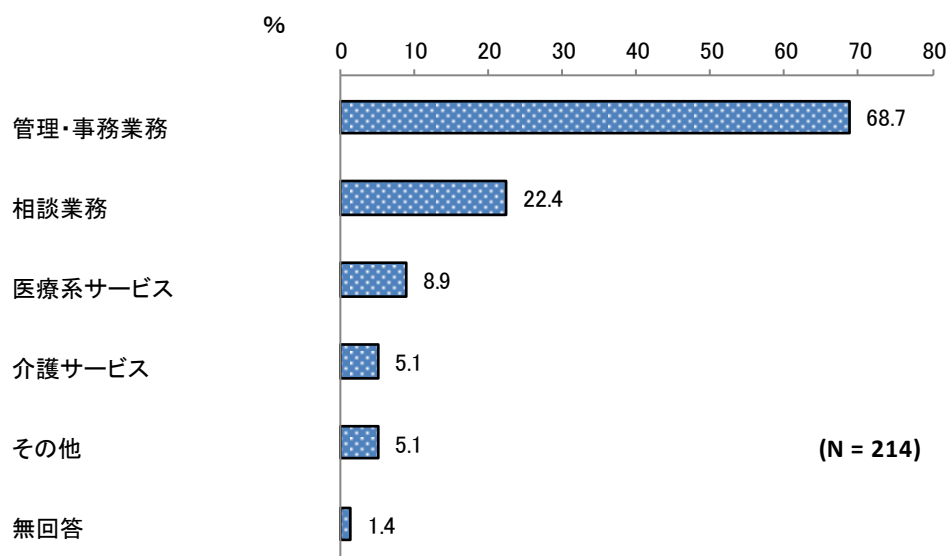
◇勤務形態は、「常勤・専従」68.2%と「常勤・兼務」18.7%を合わせた『常勤』が86.9%となっている。【図表8-2-1】

◇兼務している人の業務内容は、「管理・事務業務」が68.7%で最も高く、次いで「相談業務」が22.4%となっている。【図表8-2-2】

【図表 8-2-1 勤務形態】



【図表 8-2-2 兼務している業務[複数回答]】



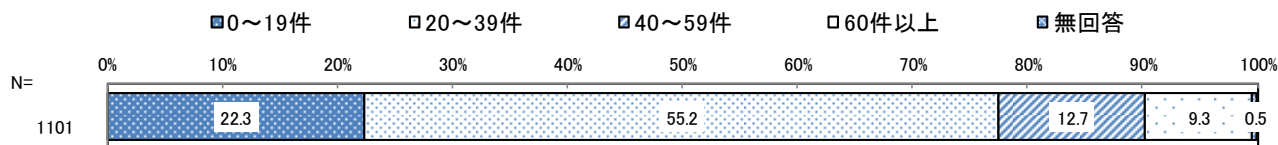
3. ケアマネジメント

(1) 給付管理件数（問 9）

◇令和 7 年 10 月に行った給付管理件数は、「20～39 件」が 55.2%で最も高く、次いで「0～19 件」が 22.3%、「40～59 件」が 12.7%となっている。【図表 8-3-1】

◇令和 7 年 10 月の介護支援専門員一人あたりの給付管理件数は 31.8 件となっている。なお、令和 4 年 10 月の一人あたりの給付管理件数は 31.4 件となっている。

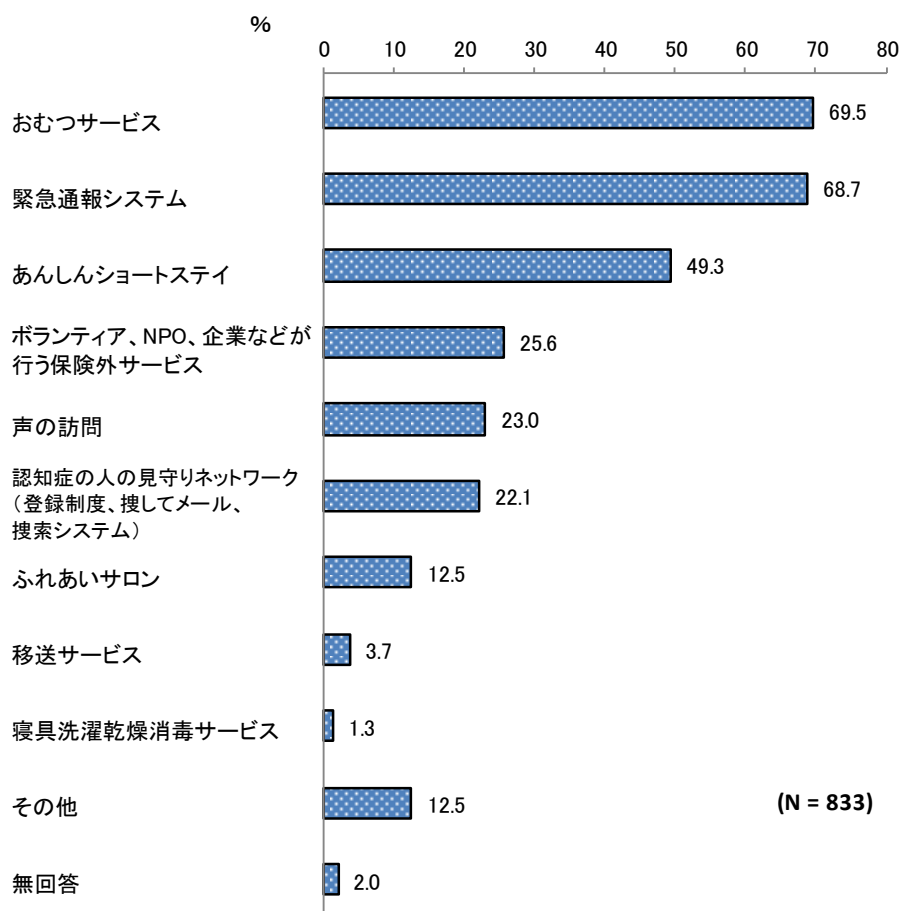
【図表 8-3-1 給付管理件数】



(2) 組み合わせた保険外サービス（問 10－1）

◇ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類は、「おむつサービス」が 69.5%で最も高く、次いで「緊急通報システム」が 68.7%、「あんしんショートステイ」が 49.3%となっている。【図表 8-3-2】

【図表 8-3-2 ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類[複数回答]】

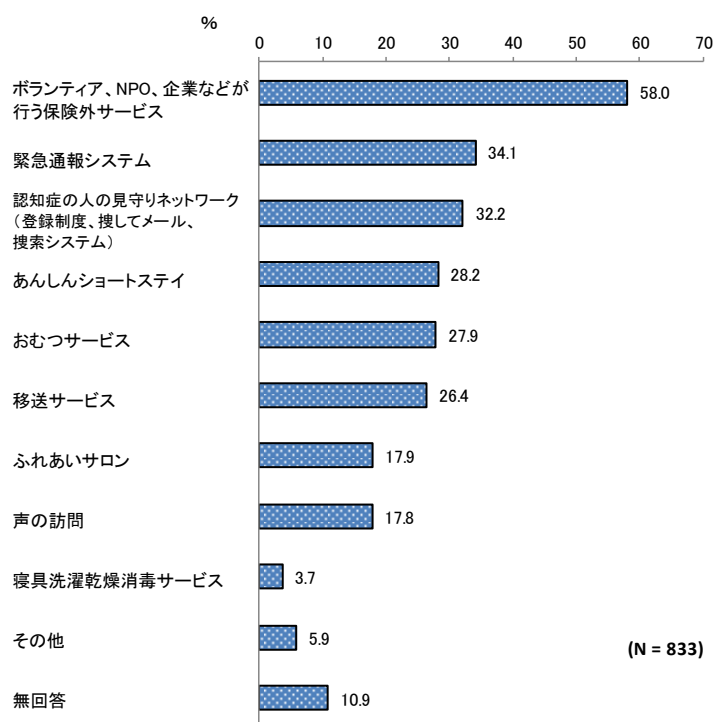


(3) 今後充実が必要な保険外サービス（問 10－3・問 10－4）

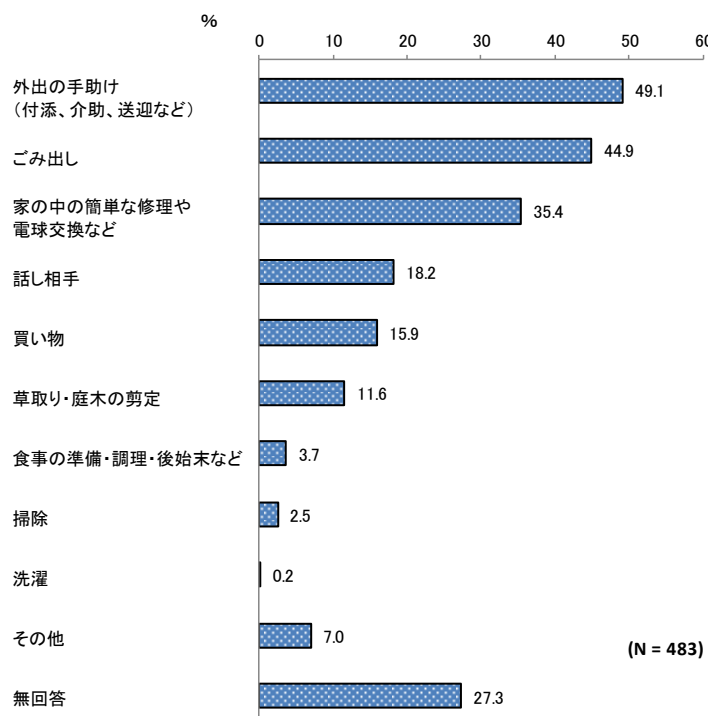
◇今後充実が必要な保険外サービスの種類は、「ボランティア、NPO、企業などが行う保険外サービス」が58.0%で最も高く、次いで「緊急通報システム」が34.1%、「認知症の人の見守りネットワーク（登録制度、捜してメール、検索システム）」が32.2%となっている。【図表 8-3-3】

◇今後充実が必要なボランティアなどが行う保険外サービスの内容は、「外出の手助け（付添、介助、送迎など）」が49.1%で最も高く、次いで「ごみ出し」が44.9%、「家の中の簡単な修理や電球交換など」が35.4%となっている。【図表 8-3-4】

【図表 8-3-3 今後充実が必要な保険外サービスの種類[複数回答]】



【図表 8-3-4 今後充実が必要なボランティア等が行う保険外サービスの内容[複数回答]】



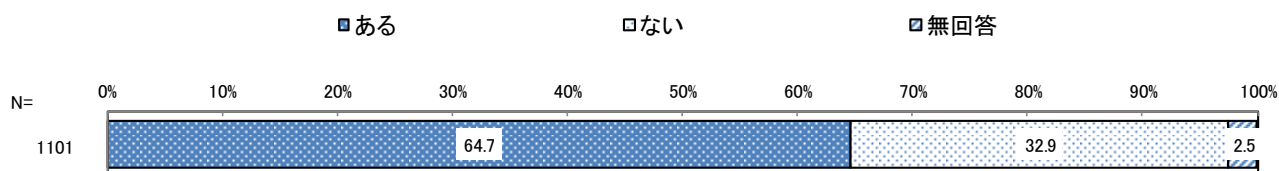
4. 地域ケア会議

(問 32・問 32－1)

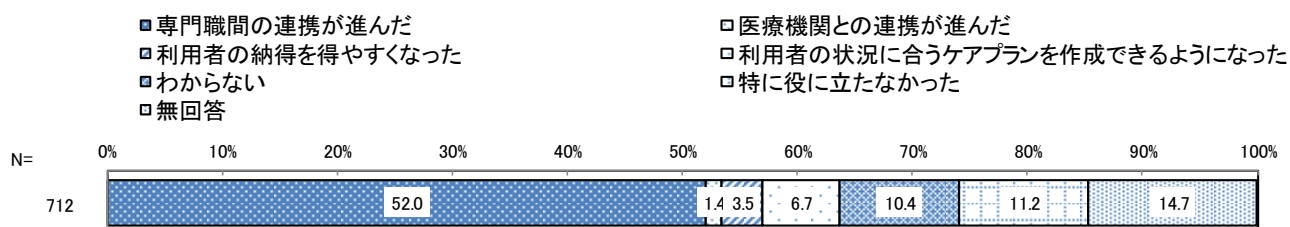
◇地域ケア会議への参加有無は、「ある」が64.7%、「ない」が32.9%となっている。【図表 8-4-1】

◇地域ケア会議に参加した効果としては、「専門職間の連携が進んだ」が52.0%で最も高く、半数を超えている。【図表 8-4-2】

【図表 8-4-1 地域ケア会議への参加有無】



【図表 8-4-2 地域ケア会議の効果】

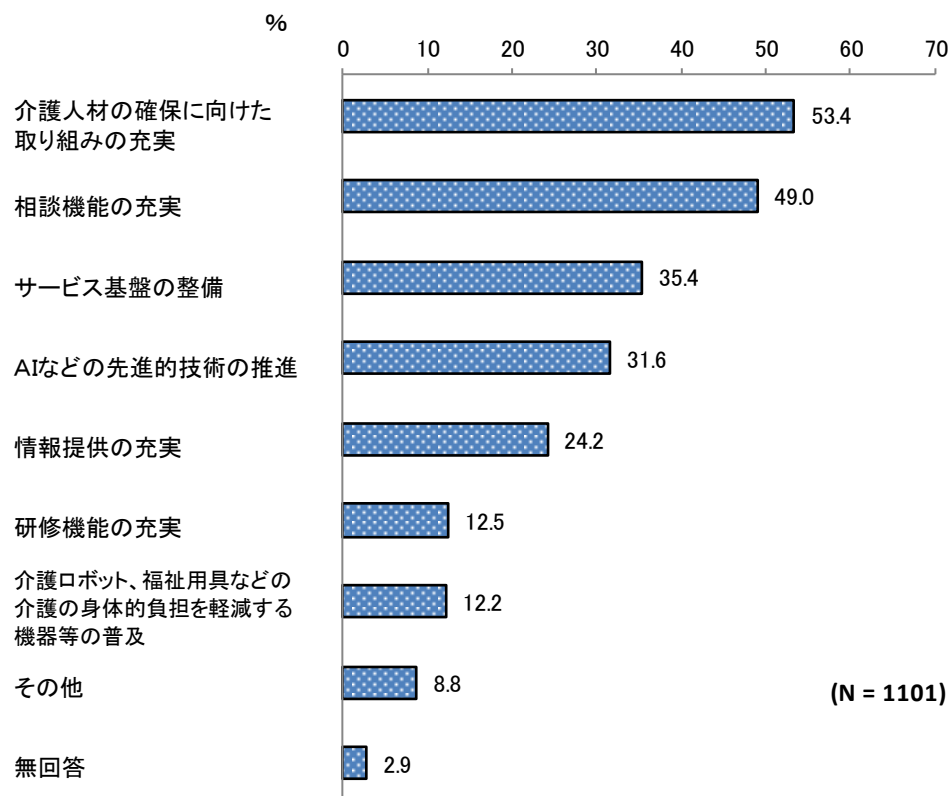


5. 行政に期待する役割

(問 37)

◇今後、行政に期待する役割は、「介護人材の確保に向けた取り組みの充実」が53.4%で最も高く、次いで「相談機能の充実」が49.0%、「サービス基盤の整備」が35.4%となっている。【図表 8-5-1】

【図表 8-5-1 行政に期待する役割[複数回答]】



令和7年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

令和8年7月

発 行	福岡市
企 画	福岡市 福祉局 高齢社会部 高齢社会政策課
	〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号
電 話	(092) 711-4595
F A X	(092) 733-5914
